は有名の驛路なりしも、鐵道開通以來、其繁華を笠岡に奪はれ、現今人口、約五千、商業漸く衰へたり、柚餅子・木綿・綿ネルを産す。笠岡警察署分署・笠岡區裁判所出張所・縣立矢掛中學校・中備織物株式會社・多聞寺・觀音寺・專敎寺・大善寺・瑞雲寺・大光寺・大通寺・丑寅神社等あり。

古歌あり。

夏くれば矢掛の淵のすゞしきに
行かふ人の過ぎがてにする
ものゝふのたけき名なれば梓弓
やかげに誰かなびかざるべき

丑寅神社。吉備津彦命を祭る氏神にして東町に在り。往昔山田村の山上に一群の强賊住居し、屢々出でゝ農民を惱ましかば、命、今の矢掛の丑寅の山上より其を射しことあり、其時一の矢、山麓の松の木にかゝりしより其附近を矢掛と稱し、其丑寅の山腹に命を祭り丑寅神社と命名せりと傳ふ。

猿掛山城址。矢掛の東、三谷村大字横谷にあり。永祿の頃、莊爲資の居城地なりしが、天文二年爲資松山城主上野頼久を滅し、上房郡松山城（高梁町にあり）に移るに及び、翌三年より其子實近の居城となり、毛利氏に屬せり。然るに後、尼子氏に屬せしかば、天文二十三年毛利・三村二氏の攻むる所となりて、莊氏滅ぶ。かくて、毛利元就の子穗田元清の居城地となれり。此地に禪宗の古刹洞松寺あり、應永十九年僧恕仲の開基にして境内に元清、其子秀元の墓碑あり。

彌高山。山甚だ高からざれども群山の上に飯を盛りあげたる如く圓く麗しく見ゆ、登臨すれば南方眼界を遮るものなく海上の眺望頗る佳なり。

雪ふれば彌高山の梢には
まだ冬ながら花咲きにけり

彌高銅山。同じく三谷村大字横谷に在り。元文年間の開坑なりしも、後、久しく廢坑に歸し、明治十九年再び此れが發掘に着手せしもの、國內著名の銅鑛なれども、明治四十二年の成績左の如し。

採掘高　一六、二二九貫
鑛石販賣高　六、二八四貫
仝　價格　五九七圓

鬼の釜。鬼ヶ嶽は小林川の上流にありて宇戸村大字烏頭に屬す。頗る怪巖奇石に富み、山容風致多し。特に山中に鬼釜と稱する穴竇尤も名あり。

高末冷泉。美川村高末にあり、亞爾加里性にして、胃腸衰弱・氣管支炎等に効あり。

町村及戸數人口……三町二十二村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
笠岡町	二、四六五戸	一一、六八六人	笠岡、富岡
金浦町	一、二九〇	六、四六三	西濱、吉濱、木之目、大河、生江濱
城見村（しろみ）	四四四	二、三七二	用之江、茂平、大宜
陶山村（すやま）	四七一	二、六〇八	押撫、有田、篠坂、入田
大江村	三四〇	一、八一五	
稻倉村	四六五	二、五六四	上稻木、下稻木、岩倉
大井村	五五四	二、九一七	東大戸、西大戸、小平井
吉田村	五六一	三、〇九一	吉田、關戸、尾坂
新山村	四六二	二、三七九	新賀、山口
北川村	五五二	三、二二三	甲斐、走出

小田村	五四八	三、一二四	
堺村	五一五	二、八二六	黑木、星田、四水砂
美山村	四七九	二、四七一	三山、大倉、東水砂
宇戸村	二九一	一、五三四	宇戸谷、島頭、宇戸、上高末
美川村	四九三	二、四七二	上高末、下高末、宇角、內田
矢掛町（みたに）	九三一	四、八八五	矢掛、小林
三谷村	五六〇	二、八四六	東三成、横谷
山田村	五八一	二、九七九	里山田、奥山田、中
川面村（かはも）	四七五	二、四一三	東川面、四川面、宇內
中川村	五一二	二、五七四	本堀、淺海、江良
今井村	四四三	二、二六八	圓井、今立、廣濱、馬飼、給師
神島內村（かうのしまうち）	七一九	三、五〇二	横島、入江新田、神島內浦
神島外村（そと）	七二五	三、五二五	神島外浦、白石島
北木島村（きたきしま）	七三八	三、八四四	
眞鍋島村（まなべしま）	五七〇	三、二三二	

後月郡

興讓館。西江原村に在り。嘉永六年三月、一橋氏の僚屬角田米三郎領主の允許を得、領民の合議を經て創立せし者なり、同年學舍落成せしかば、當時同郡簗瀬村大字櫻谷（今吉井村と云ふ）に閑居せし、碩儒阪谷朗廬を禮聘して領民の教授を囑託せり。安政元年春幕府の儒者古賀謹一郎長崎へ下向の途次、駕を枉げ、興讓館と題せる扁額を留めらる。是より本館を興讓館と稱す。四方其名を聞きて遊學するもの漸次盛大を致せり。後明治元年阪田警軒繼ぎ、十九年山下政吉、二十三年奥田吉太郎、三十三年山下氏再び入館し、世評益々高く今日に至るまで、一日も讀書の聲を絶たずと云ふ、蓋し、備中に於ける私立學校の嚆矢にして、明治四十一年四月私立興讓館中學校と更めたり。

永祥寺。同村に在り、曹洞の巨刹にして、嘉吉元年（或は永享年中と云ふ）の創建なり。開山は卽僧良秀にして、開基は那須與市宗高と云ふ。宗高屋島合戰の恩賞として數多土地を賜はりし中に備中國荏原庄あり、よりて此地に來り、小菅城に居りしなりと。寺に永享年中那須藏人長隆の證文存す。境地幽邃にして、且つ其東西に二瀑あり、東瀧は高幅共に十尺、西瀧は高三十尺、幅十尺、共に觀るべし。

千手院。山野上村にあり、眞言宗にして、天平九年の草創、僧行基の開基なり、境內風致に富めり。

花瀧。明治村の花瀧にあり。瀧は、里民其水聲の高低によりて晴雨を知るより鳴瀧とも稱し、宇戸川の上流にして、高さ六十六尺、幅十八尺、巨岩の上より落下する時白沫花の散るが如く美にして且つ壯なり。附近、又山高く、溪深し。

天神山仰德園。碩儒阪田警軒・阪谷朗廬の碑あり。

天神溪。芳井村大字吉井の北にあり。巨松老杉多く頗る幽致あり。且つ、菅公の神祠あり、社前、溪流に沿うて楓樹多く、秋景最も佳なり。

蛇穴。共和村大字上鳴の西方、鳴川の傍に奇竇あり、蛇穴と云ふ。其口小なりと雖も、入るに從ひ漸く廣くして、且つ低下し、深さ凡そ六百尺に達すと云ふ。

清和寺。同村大字下鳴村にあり。曹洞宗に屬し、元慶三年の創建にかゝる。開基を詳にせず、或は曰ふ、清和天皇の建立なりと。

重玄寺。芳井村天神山の東に在り。臨濟の禪林にして、僧千畝の開基、創建は嘉吉元年なり。

井原町。郡の中央小田川の岸にあり。笠岡の北方約三里半、岡山を距る十二里二十八町、東西交通の要路にして郡中第一の市街なり。人口約

五千を有し、後月郡役所・警察署・町立女學校・中備製糸株式會社・井原織物所・井原銀行等あり。綿・藍・玉・刻煙草等を產す。

日芳橋（ひよしばし）。小田川に架せる山陽街道中の一長橋にして、出部村に在り。橋頭に碑立ち、阪谷朗廬翁の撰文を刻せり。

曰く、

安政四年冬十有一月中備七日市驛芳井川大橋新成、驛爲要道郵傳之一、其水平清淺、揭厲可過、水潦時至、濁浪湖渤、雖嚴檄急報弗通、最爲西諸侯之患矣、而古來未有橋也、一橋府縣令友山君、來治之十年、政成歲豐、肆廛大開、君乃深慮建議、令吏員角田亨等與父老計、雨崖疊石、修舊堤、長數十丈、架橋於其上、橋長二十丈、濶丈有二尺、用工三閱月、費金若干、咸不累民、既成、就驛與川、各取一字、命曰日芳橋、於是、數百歲之險、一朝變爲坦路、東西行旅、永無阻礙、可謂盛舉也、父老懼其事失傳、繼者

或怠、來請銘、銘曰。

川梁不修、陳國致尤、徒杠不設、亞聖垂說、矧斯官程、遼通崎陽、蠻夷有機、一水匪微、長橋穹窿、如虹如龍、來往奕奕、光耀古昔、萬旅欣欣、芳聲四傳、後者弗繼、謗曁永世、銘揭橋傍以告無彊。

出部。出部村は垂仁天皇の皇子膳年部（いつべ）皇子子なきにより御子代として之を定められたる地なり。

町村名及戶數人口……一町十二村。

町村名	現住戶數	現住人口	大字名
高屋村	六一四戶	三、二二六人	
出部村	五七三	二、八二九	笹賀、下出部、上出部
縣主（あがたぬし）村	三四〇	一、八一五	西方、門田
水之子村	三六四	一、九七二	

荏原村	五五三	二、九四九	神代、東江原
西江原村	六五九	三、三一八	
山野上村	二五八	一、四六七	
青野村	三三一	一、七八六	青野、稗原、北山
井原町	一、〇四五	五、〇七一	
芳井村	一、〇九一	六、二六七	吉井、天神山、川相、梶江、簗瀬、興井、宇戸川
明治村	五八七	三、四二五	花瀧、穐、佐屋、池谷、井山、片塚
共和村	四九九	二、七一九	山村、下鳴、上鳴
三原村	二六七	一、二八八	東三原、四三原

吉備郡

庭瀬町。山陽本線庭瀬驛の所在地にして、元と板倉氏一萬石の城邑なり。

吉備津神社。眞金村大字宮內に在り。國幣中社に班し、吉備津彥命を奉祀せり。命は崇神天皇の御代、四道將軍として山陽道の夷狄を平げ御壽齡二百八十餘歲にして薨ぜらる。而して、仁德天皇の御代、神殿を此地に造立せられしが、其後、後冷泉天皇の康平二年燒失し、後、朝廷より御造營ありしに、又も崇光天皇の觀應二年十一月一日夜、火災起り、渡殿・直會殿・御饌殿等悉く燒失し、後小松天皇の明德元年足利義滿に詔あり、更に社殿を築かしむ。應永八年十二月起工し、仝三十二年十二月二十九日竣工したるものにして、今を距ること四百八十六年前の建築に係り、現在の社なり、其社の模型は、悉く鎌倉時代の風に習ひ、比翼權現造にして、其巧妙精緻なる大に注意を惹くの價値あり。されば明治三十五年四月十七日

御本殿桁行正面五間、　裡面七間、　梁八間、

單層屋根比翼入母屋造檜皮葺。

御拜殿三間四面重層屋根切妻造檜皮葺。

南隨神門八脚門屋根入母屋造、本瓦葺。

は、古社寺第四條により、特別保護建造物と認定せられ、内務省の保管となれり。而して、此珍寶は、明治四十二年四月一日より、四十三年七月二十六日まで、約二ヶ年の歳月を費して修理をなし、今日の美觀を添うるに至れる次第なり。

先づ石の階段を登りて、北隨神門を通れば、又、石の階段あり、登り詰めし所に、惣拜殿次に拜殿あり、御本殿、其奥に建ち、數十の銅燈を簷に掛けたり。庭の中には東照宮、神庫、天神宮等の小祠あり。

廻廊は二百間餘の長さを有し、中間、南隨神門を有す、境内には以上の外、猶

金山彦神社、岩山宮、八幡宮、春日宮、大神宮、本宮社、

瀧祭社、荒神社、和靈社、御祝天神社、櫻天神社、疫神社、

牛神社、有木神社、宇賀神社、

等の小祠少なからず。

祠傍に上古の釜あり、鳴動竈殿に存置す、二媼其傍にありて松葉を薪に作る、此媼は、此の神の仕女にして、善男善女祈る事あれば、巫人薪を燃し、奠粢を釜前に盛る、此くて祝唱畢り、柴燃ゆれば釜鳴る、而して牛の如き聲なれば吉にして、若し釜鳴らざれば凶なりと云ふ。

猶、序に年中の祭日を示さんに、

祈年祭	二月十七日	新嘗祭	十一月二十三日
春季大祭	五月十三日	秋季大祭	十月十八・十九日
小祭	毎月十三日		

の如し。

吉備中山。吉備中山は、眞金の東南、備前御津郡との境にあり、其形の肖たるより、鯉山と稱す、絶頂に瓢形の大塚あり、此邊を茶臼山と云ひ、吉備津彦命の御墓なり。

吉備津彦命御陵。全體に岩石の欠片相重なり、誠の石塚の如く見ゆ、南北百八間、東西五十七間、瓢形の頭は南を向き、塚の近傍には埴輪の破片も散在す。

石舟。山中に又石舟と云ふものあり、長方形の刳り拔き石棺にして、南北長さ六尺四寸、東西の幅三尺三寸、高さ一尺三寸、厚さ六寸許なり、蓋石は失ひて今は無し、又石槨の幅は五尺餘、奥行三間、高さ四尺位あり。

細谷川。山中に又細谷川あり。古來國中の名所と稱せられ、文人、佳客の歌詠甚だ多し。

眞金ふく吉備の中山帶にせる
細谷川のおとのさやけさ　（古今集）

葛かれて猶谷川の細みかな

藤原成親の墓。山中有木と稱する所に成親の墓あり、成親、嘗て行綱、西光等と平氏を滅さん事を圖りて、俊寛の鹿谷の別莊に會せしが、事早くも清盛の知る所となり、捕へられて備前に流さる、後清盛、難波次郎經遠をして、殺さしめしと云ふ。墓は今荒廢して、僅かに其形を存するのみ。

僧榮西。眞金の人なり。姓は賀陽氏、八歳にして倶舍論及び毗婆娑論を讀む、人其穎悟を嘆賞せざるものなかりき。十一歳の時に至りて安養寺に入り、寺僧靜心に就て學び十四歳にして薙髮し、次で十九歳の時叡山に入り有辨より臺敎を修め後、文治三年宋に行き、天臺山に登り

萬年寺の虚庵を師として宗教の奥儀を極むること五年、建久二年歸朝し始めて禪宗を唱ふ、これを京都建仁寺の開基となす。禪師は猶、彼國にありし間に茶の種子を高山寺の明慧上人高辨に送れり、高辨これより其繁殖に盡力し、漸次各所に傳播するに至りしものなりと云ふ。

高松城址。　高松村にあり。稻荷驛より七八町許、天正十年城主清水長左衛門宗治が、秀吉の爲めに水攻めの計に罹りし所なり。宗治は毛利輝元に屬し、平地の少し小高き地に城を構へたりと雖も、四邊に深田を帶び、或は池沼を廻らし、僅かに一騎打の細道を通じ、五千の士卒死地に在りて、生を思はず防戰せば、到底人力を以て攻むとも、勞して功無き樣に繕らへたり。此くて天正十年織田信長の將、羽柴秀吉が、毛利氏征伐の師を出すや、兵を移して此城を攻む、宗治よく防ぎ、月を踰えて

下らず、時恰も五月雨頃なりければ、秀吉卽ち人數二千許を取合せて土俵を以て足守川を堰き切、又備前の方の山半分に溝を付け、城の方へ流しかけたり、折しも大雨、洪水を生じ、城下一面の江湖となる、依て六月四日宗治は兄月清入道等と共に切腹忠死を遂げ、城兵の死を救ひて名を後代に傳へたり。

今や、其城址に石碑を建て、傍らに宗治の首塚を存す。此城址を訪ひて、碑文を一讀しつゝ、秀吉の營所たりし蛙が鼻及足守川、其他の谿流を望む時、其人々の心や如何に感ずらん。

高松稻荷。　高松村大字稻荷に在り、妙敎寺と稱す。高松驛より輕便鐵道の便を有す。寺は慶長六年、僧日圓の開基に係る。寺域は龍王山(俗に稻荷山と稱す)の中腹に位し、全山松樹蓊鬱とし、巔に登れば、山頂に石祠あり、八大龍王の祠にして、側に荒田喜權現と書せる石碑あり。眺望千

里、遙山遠海蒼茫として、間に田圃湖水を點綴す、風景絶佳なり。境内には、本堂・客殿・庫裡・經堂・鐘樓・二王門・鎮守堂・拜殿等あり、叱枳尼天を本尊とす。天平勝寶四年孝謙天皇御不豫にして醫藥も効を奏せず、報恩大師に命じて加持せしむ。大師乃ち叱枳尼天を念ぜしに天皇の疾立どころに癒ゆ、後又桓武天皇の御惱平癒を祈りて靈驗ありしかば、大師勅を奉じ此地に堂宇を創造して之を祭る。然るに天正の亂に當り、堂宇悉く烏有に歸せしを日圓上人再興せるなりと傳ふ。それかあらぬか、詣人常に多く、殊に初午及毎月二十五日の緣日には、遠近より來る賽客群集して其雜沓頗る甚し。

縣立農學校。　高松驛附近にあり、明治三十二年農事講習所を改めたるものにして修業年限四ヶ年、農學科・獸醫科に分たる。實習地・附屬建築物等も整頓し、關西有數の農學校なり。

縣立農事試驗場。　高松村にあり、本縣は氣候溫和、地味豐饒にして農事に適し、且つ土地廣く、耕地十二万五千餘町歩を有し、農家亦十六万七千餘戸、此人口約八十万人に達し、一ヶ年の收入參千何百萬圓に上れり、是に於てか一般農事に關する奬勵機關として本所は設けられたるものにして、内部の設備整頓し、田・畑・果樹園・苗床・薄荷試驗地等を有し、實際的指導啓發に努力しつゝあり。

足守町。　足守驛の北三十町、足守川の溪谷にあり、元と木下氏二万五千石の治所にして、今人口二千八百餘を有す。牛蒡・米を主要なるものとし、其他花筵を出す。町立婉廳女學校・葉田八幡宮・葦守宮舊趾・神向寺（眞言宗）・東光寺（日蓮宗）・乘典寺（同上）等あり。

葦守宮舊趾。　足守町大字上足守大神谷に在り、應神天皇山陽道御巡幸の折の行在所と云ふ。

鬼の釜。阿曾村大字黒尾なる新山の山中に巨釜あり、鬼の釜と稱し、垂仁帝の御代、百濟の王子溫羅と云へるものゝ住みて用ゐしものなりと云ふ。直徑六尺、深さ四尺、厚さ一寸許、周圍凡そ二丈鐵製にして底は腐蝕して現今存せず。

鬼の城。溫羅身幹一丈四尺餘、勇猛にして仁義を守らず、嘗て日本を窺はんと欲して渡航し、遂に新山に居を定め、城壁を築き石壁を繞らし、要害を堅固にし、貢賦を掠め、良民を苦しむ。時人之を稱して鬼の城と云ふ。天皇征夷大將軍を派して之を擊たしめしも官軍利あらずして還る。天皇更に吉備津彦命をして征せしむ、命乃ち吉備の中山に陣し、之と相戰ふ。凶徒變化の術を得て進退自在なり、命躬ら軍陣に臨み、大矢二筋を發射す、其一矢は空中に於て、羅の投げし岩に中りて落つ、後世其處に

矢嚙宮。を建つ。一矢は溫羅の左眼に命中し、鮮血流れて血吸川。となる。是に於て凶賊は雉子と化して山中に隱る。命乃ち鷹となりて追ふ。溫羅又鯉に化して血吸川に入りしを以て、命更に鵜となりて水中に入り嚙んで之を揚ぐ、後世其地に祠を建てゝ鯉嚙宮。と云ふ。溫羅遂に敵す可らざるを覺り、鋒刀を棄てゝ降伏せりと傳ふ。

服部村。邑久郡行幸村大字服部村、上道郡幡多村と共に、阿知使主が吳に至り、率ゐ來りし織女及び縫女を置かれし地なるによりて此名あり、又阿知使主の族黨も服部と共に繁衍し、都窪郡(倉敷町の鄕社を阿智神社とす)淺口郡河内村大字西阿知、邑久郡大内村等にも住居せしならん。

服部山城址。服部村服部山上に在り、延元元年大江田光信の築城にし

て、後細川氏の將上野盛行の居城となりしが、文明三年再び大江田氏の有に歸し、下足守冠山城に移りしも、天正十年秀吉の陷る所となりしと云ふ。

總社町。總社驛の所在地にして、郡の中央にあり、人口約六千八百を有し吉備郡役所を初め、警察署・稅務署・吉備保育院・私立春靄(しゅんあい)女學校・總社銀行・吉備賣藥株式會社・總社等あり。

國府址。總社明神の地を以て國府の遺跡となす、今遺物なきを憾む。

吉備保育院。吉備郡大和村妙本寺の住職釋日研が、明治三十五年、孤兒の頼むなきを憫み、私財を投じて、寺内に收容せしに初まる、爾來、人員增加して、種々の不便生せしかば、三十九年二月同郡總社町に孤兒院を設立し、百難を犯して事業の爲めに奮鬪せり、院内に教育場を設け、小學校の課程を教授せしむ。妻、妙善亦克く夫を助け、爲めに庶民の同

情厚く、成績良好なり。

總社。總社町大字總社に在り、縣社にして、大巳貴命・須勢理姫命を祭る。大化年中此所に勸請し、後、中絶せしを元弘年中足利氏の世、之を再興し、爾來世々の國守、本社を崇敬して社領を寄附せりと云ふ。此地は國府の遺趾にして社殿古雅、老樹亭々として茂り、一見して千餘年の舊社たるを知るべし。社殿には本社・幣殿・拜殿・神饌所・神樂殿・其他二三の末社あり。

寶福寺。總社町字井尻野にあり、湛井驛より數町、臨濟宗の名藍にして、貞永元年惠聰禪師の創建に係る、佛殿・開山堂・禪堂・三重塔・鎭守堂等あり、名高き畫工雪舟の幼時に住みし寺なれども、惜い哉、今其遺作の類を傳へずと云ふ。又什寶には佛舍利・舍利塔・後水尾天皇宸筆の一軸其他古書畫あり。

豪溪。豪溪は池田村大字槇谷にあり、湛井驛より二里許、人力車の便あり。槇谷川の流に枕み、幽深怪奇を盡せり。實に巉巖、磐頭よく碧溪を壓して、老松は此の罅隙を縫ひ、溪水は此の石根を洗ひ、水亂れ、石戰ひて、其奇殆んど名狀す可らず、前面の巨岩に「天柱」の二字を鐫す、これ備前の人武元登々庵が、文政年中此地に遊び、其絶景を賞せる餘り、自ら書し、後之を彫刻せしめたるものなり。

八田部。總社町及箭田村大字箭田の地にして、仁德天皇の朝、皇后八田若郎女の御名代として置かれたるものなり。

刑部。總社町大字刑部、阿哲郡刑部村大字刑部の地は、允恭天皇の二年、皇后忍坂大中媛の御名代をして置かれたるものなり。

吉備眞備。箭田村の人にして、其先は、吉備津彦命に出で、世々吉備に居る。靈龜二年、遣唐留學生と爲る、時に年二十四、唐に在る事二十年、經史

を研修し衆藝に該渉す、天平七年歸り、恩寵甚だ深し、後遣唐副使と爲り再び唐に赴き、玄宗皇帝より青光錄大夫を授けらる、歸朝の後、唐に內亂ありしを以て、怡土城を筑前に築くことを建議し、西海道節度使となり、九州の防備を盡せり、累進正二位大納言に進み寶龜六年八十三歳を以て歿せり。

吉備眞備の墳墓。箭田村は吉備眞備の生誕地にして、其地に墳墓を有し、玉島驛より北二里、人力車、馬車の便あり。弘化年中舊領主伊藤長寛の建てたる碑、墓邊に立てり。

箭田の桃花。同村の桃山は面積二町に亘り、該山に登れば箭田村一面は指呼の內にあり、花時の景又格別なり。

模範村岩田。郡の東北隅にある山村にして、石妻・山上・上高田の三大字より成り、戶數三百十九、人口千五百十二を有す、治績大にあがり、明治

四十三年二月內務大臣の選奬を得賜金五百圓を受くるに至りしものにして、其重なる治績事實左の如くなりと云ふ。

滯納矯弊、　就學兒童百分ノ百、　役場吏員談話會、
組頭會、　戶主會、　婦人會、　青年團、　耆老會、
報德社、　植林奬勵、　信用組合、　購買販賣組合、
村畜產會、　戊申社、　機關雜誌發刊等。

町村名及戶數人口……三町二十八村。

町村名	現住戶數	現住人口	大字名
岡田村	三二五戶	一、六一五人	岡田、辻田
川邊村	一九四	九八五	
二万村	三七二	一、九六五	下二万、上二万
穗井田村	五六四	二、八四八	陶、服部

吳妹村	四二一	二、一八三	妹、尾崎
箭田村	五二二	二、五四一	
圖師村	四六五	二、三八九	有井、市場
新本村	四九九	二、三六一	
山田村	二四六	一、二六四	
久代村	四五三	二、一三六	
下倉村	三二二	一、六一八	
水內村	四四四	二、三二四	影、中尾、原
秦村	五〇一	二、六〇二	福谷、秦
神在村	二八七	一、四八六	上原、富原、八代、下原
庭瀨町	八一九	四、〇〇五	平野、延友、東花尻、西花尻、庭瀨、川入
眞金村	四七八	二、二三三	
高松村	六三六	二、九一一	立田、原古才、高松、大崎、和井元、平山、稻荷
生石村	三六九	一、七〇六	三手、小山、門前、福崎、高塚、田中、下土田
服部村	三五四	一、六四九	窪木、南濟手、北濟手、長良、金井戶

阿曾村	六四九	二、八七六	奥坂、西阿曾、久米、黒尾、東阿曾
總社町	一、五一五	六、八四七	總社、井手、刑部、福井、小寺、門田、井尻野
池田村	四一五	二、〇七四	尖翠、見延、槇谷
日美村	三九九	一、九二二	日羽、美袋
富山村	三一〇	一、六六七	宇山、種井、延原、橋
大和村	五八六	三、一四四	北、岨谷、西、宮地
菅谷村	二三四	一、〇〇四	竹部、上野
福谷村	六四五	三、二三一	西山内、間倉、掛畑、河原、眞屋、東山内、苦山、庄田
岩田村	三一九	一、五一二	山上、石要、上高田
日近村	三八三	一、八四一	日近、杉谷、下高田、吉
大井村	五一四	二、一七〇	大井、翠井
足守町	六四三	二、八一〇	上足守、下足守、上土田

上房郡

高梁町。郡の西南にありて、高梁川に臨み、南北に狹長なる市街を連ね、人口約七千、備中國中部の商業中心區とも稱すべく、北部地方の物産は、高梁川の舟便によりて、皆一度此地に集り、更に高瀬舟によりて玉島港へ輸送す。上房郡役所・警察署・區裁判所・稅務署・小林區署・高梁專賣支局・專賣局場外作業工場・縣立高梁中學校・私立順正高等女學校・仝順正女學校・八十六銀行・高梁銀行等あり。物産には煙草・麥稈眞田・紙等を主なるものとす。猶此地は、元、松山と稱し、板倉氏五萬石の城地にして、今、町の北、臥牛山に其城址を殘せり。明治二年松山を改めて高梁とす。

松山城址。臥牛山にあり、一に城山と稱す。仁治年中秋庭重信始めて城を築き、累世五代、元弘元年に至りて、高橋英光此地方の守護となり、秋

庭氏に代りて此城を治す。後、足利尊氏山陽道を徇ふるに方り、其族、高越後守師秀を以て守護たらしむ。然るに正平十七年秋庭重明南朝に應じて師秀を追ひ、自ら守護代となり、天文二年には小田郡猿掛城主莊爲資の居城と變じ、永祿三年三村家親毛利氏の援を乞ひ高資（爲資の子）を殺して、松山城に據り、其子元親叛きて毛利氏に滅ぼさる。羽柴秀吉の西伐するや、宇喜多秀家に與へ、關ヶ原の役後、德川氏、小早川秀秋を封ず、秀秋卒して後、元和元年小堀政次、幕命を受けて來りしも、仝六年池田長幸此所に居城してより水谷・安藤・石川等の諸氏を經、延享元年板倉勝澄、龜山より入部し、爾後相繼で維新に至る。今は老樹の森々たる間に其外壁を存するのみ。

賴久寺。同町に在り、臨濟宗に屬し、延元三年足利尊氏の創建にして、當時天柱山安國寺と稱せり。後永正十二年、城主上野賴久（賴久の父上野刑部氏之、三河國小谷より來りて秋庭氏に代り、賴久の時莊爲資と戰つて敗れ莊氏入城せしなり）此を再建して、賴久寺と改む。更に天保十年燒失したるを僧桂巖の重興せるものなり。國寶絹本著色釋迦三尊像の外、曆應二年、僧西念寄進の石燈籠及圓應禪師の影像等あり。

八幡神社。松山村にあり。清和天皇貞觀年間の創建にして、天照大神・仲哀天皇・神功皇后・應神天皇・仁德天皇・玉依姫等を祀る。

安正寺。高梁町の東にあり。曹洞宗に屬し、城主板倉勝職の建築に係る、

其他松山村に巨福寺・藥師院・松連寺等あり。

巨福寺は日蓮宗に屬し、慶長年間僧日源の開基、

藥師院は眞言宗に屬し、弘仁年中僧空海の草創、

松連寺は眞言宗に屬し、慶安四年水谷勝隆の建立と稱す。

高倉山。松山村に勝地あり、高倉山と云ふ。一に下山と稱し、古來有名の所にして、山上の眺望頗る佳なり。

鐘乳窟。　郡の北方、上水田村の山中にあり。高梁町より北五里とす。窟は凡て石灰石より成り、洞口、西北に向ふ。高さ三間、幅一間許、内部は暗黑にして、入るに隨ひ漸く低下す、匍匐して天然の隧道を過ぐれば穴再び濶く、平坦なる所、方六七間、高一丈乃至二丈あり。松明を燃して入れば、物あり參差として出づ、其幾千万なるを知らず、立てる者、臥せるもの圓き者、方なる者、或は人、或は鬼、鳥、獸、怒れる如き者、驚ける如き者、誠に千差万別の形を有せり。其形によりて名あり、釜の壇、五重の塔、天の岩戸、鐘石、鬼の豆石、七畦田、天柱等は其重なる者なり。

方谷園。　中井村字西方は近代の碩儒山田方谷の生地にして、此所に方谷園あり。

山田方谷。　名は球、字は林卿、安五郎と稱す、方谷は其號なり。家世々農を業とす、方谷幼にして聰明、神童の稱あり。年二十五にして松山藩學の

會頭となり、居ること二年、請て京都に遊び、寺島、鈴木、春日の諸儒に交り、遂に江戸に至り、佐藤一齋に從ひて王學を受け、佐久間象山、鹽谷宕陰等と交り、共に研精すること、凡八年、業大に進み國に歸りて學頭に進む。方谷又西洋の火技を津山の天野氏に受け、此れを藩内に傳ふ。世子封を襲ぐに及び、擢でられて、度支を掌り、財政を改むることゝなり、賄賂を絶ち、奢靡を禁じ、鄕校を設け、貯倉を置き、道路、河溝を開拓する等功績甚だ多かりき。後、阿哲郡刑部に退隱し子弟を敎へ、又備前に聘せられ、閑谷黌を再興せり。明治十年六月二十六日遂に刑部山中に歿す、年七十三、明治四十三年十一月十六日特旨を以て正五位を贈らる。

室鳩巢。　名は直淸、字は師禮、鳩巢は其號なり。本郡中津井村の人なり。幼にして聰悟老成の風あり、年十四にして加賀侯に召されて大學章句を講ず、侯、其器を賞し、乃ち京都に出で、木下順庵に就て學ばしむ、これ

より文日に精しく、學月に進む、師も毎に評して曰く、師禮は、忠信篤敬。聖學に志あり、吾が益友なりと、正德中新井君美の薦により幕府の儒員に擧げられ、六諭衍義大意、五倫五常名義等の著書多し、又元祿中赤穗遺臣伏仇の一擧あるや、諸儒異說を唱へしに、氏は獨り義人錄を著はして深く之を稱揚せり。享保十九年八月十二日歿す年七十七。

町村名及戸數人口……一町十五村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
高梁町	一、五一八戸	六、八七九人	内山下、川端町、本町、片原町、中ノ町、頼久寺町、石火矢町、御前町、小高下、伊賀町、寺町、向町、間ノ町、甲賀町、八幡町、荒神町、柿ノ木町、大工町、下町、南町、鍛冶町、中間町、弓ノ町、鐵砲町、新町
松山村	六八六	三、四八六	
津川村	三九六	二、一一〇	今津、八川
川面村	四六七	二、六〇八	
巨瀬村	四六七	二、五〇二	

有漢村	五五九	二、七六二	
上有漢村	四二二	二、〇九六	
上竹莊村	四五六	二、二四七	有津井、納地
豐野村	五〇二	二、五八〇	豐野、稔
下竹莊村	三七八	一、八三五	黑土、田土、湯山
吉川村	三二〇	一、四五七	吉川、黑山
中井村	五〇〇	二、七八五	西方、津々
中津井村	四五二	二、四一六	上中津井、下中津井
皆部村	五〇五	二、七一二	下皆部、上皆部、阿口
上水田村	五〇二	二、七五九	
水田村	四四三	二、三二〇	宮地、五名、山田

川上郡

山中幸盛墓。落合村大字阿部にあり、高梁川の沿岸とす。幸盛は尼子勝

久と共に上月城によりて毛利氏に抗し、羽柴秀吉の來援を待つ、然るに秀吉遂に到らず、卽ち勝久は自盡し、幸盛は伴りて降り吉川元春を刺さんと欲し、果さず。藝州へ護送の途中、天正六年小早川隆景、其家臣をして此地に殺さしめしなり。今其地に碑を建て其英魂を弔ふ。淺尾藩主蒔田時棟の建設せる所なり。

深耕寺。同村大字原田にあり。禪宗の古刹にして、寛弘三年の創立、一に花山天皇の開基なりと云ふ。

成羽町。高梁町の西方約二里とす。成羽川に據り、郡中第一の名邑にして、人口六千五百餘あり。成羽川に水運の便多くして、吹屋より出す銅其他の鑛物は皆此地を經、高梁川により玉島港に輸送するを例とせり。此地に川上郡役所・警察署・高梁區裁判所出張所・成羽銀行・八幡神社・千壽院・龍心寺・本光寺・源住寺・桂嚴寺・西ノ坊等あり。穀物・麥稈・經木眞田

を主なる產物とし醬油・酒は共に名あり。

鶴首城址。成羽町の背面なる丘陵を鶴首山と云ひ、其山頂に城址あり。文治五年河村四郎秀清の築きしものにて、永正年中三村紀伊守家親の居城となりしが、宇喜多直家人をして家親を銃殺せしむ。其後、元和三年山崎左馬允家盛、因州若狹より來りしが、寛永十五年其子甲斐守家治に至りて、肥後天草に移され、翌十六年水谷勝隆代りしも、後、幕府の直轄となり、代官小川藤右衞門之を領せり。而して萬治元年山崎豐治封せられ、維新に及べり。現今疊壁を存し、城址に小學校を建てゝ、兒童の敎育場となせり。

布晒瀧。白谷川の上流、愛宕・高丸兩山の間に在り、近傍楓樹多く晩秋の景特に佳なり。

貝化石。成羽町附近に、水蝕を免れたる、三疊系スードモノチス層の小

區あり。同層は二種岩層の互層より成る。卽ち下部は、スードモノチスヲコチカの外、識別し難き二三の腹歩類の遺骸を含蓄する粘土質砂岩にして、上層は砂岩質頁岩なり。砂岩は其大部を占め、介化石を含み、其間に保存全からざる木化石を含有する、炭質頁岩の薄層を挿入せり。

穴小屋。成羽町大字羽山にある奇洞にして、到る處皆洞穴なり、其最も高濶なるを槍立場と稱す。頂上小孔あり、日光僅に之より洩る。又奇觀なり。

模範村字治。字治村は本郡北部の山村にして、穴田・宇治・本郷・遠原の四大字より成り、戸數三百九十三・人口二千二百七十二を有す。村民淳樸にして共同一致の氣風に富み、村吏亦能く其職に精勵せり。是れを以て事務の整善・文書の處理・簿冊の編綴・保存等見るべきものあり。而し

て本村の施設上取て以て範となすべきもの多き中に、

納稅組合を設けて納稅滯納の弊風を改めし事、

貧困兒童保護會を設けて就學及出席を奬勵せし事、

村教育會・奬學溫情會・父兄會・母姉會等を開設して學校と家庭との聯絡を圖りし事、

育生教育を開始し不就學者を減せし事、

學校基本財產補育會を設けし事、

米麥精製法を奬めし事、

神社崇敬の念を皷吹せしこと、

土地を研究して水田の收穫高を增加せしめし事、

植林事業を奬勵せしこと、

道路・橋梁・溝渠を修築して、交通水利の便を啓きし事、

信用販賣購買組合を組織し、村内の融資を圖りし事、
勤儉貯蓄組合を設立して奢侈を禁じ、勤勞を奬めし事、
婦人會・報德會を起して矯風奬善の事を計りし事、
等を重なる事とす。かくて治績最も良好に村内燃々として各其業に安んずるの觀あり、爲めに明治四十三年二月二十五日内務大臣の選奬する所となり賜金八百圓を受くるに至れり。

吉岡鑛山。成羽の北三里餘の山中に吹屋町あり、銅鑛を以て其名著はる。吹屋銅山の開坑は大同二年にして、實に一千餘年の星霜を經たり。鑛坑數多き中に、吉岡最も著しく、實に縣下第一の富坑なり。鑛區百二萬三千二百坪を有し、一ヶ年の製煉高凡そ十萬貫に及ぶと云ふ。明治六年三菱合資會社の所有に歸してより、採鑛精煉の經營は凡て新式に則り、動力としては石油發動機を備へ、加ふるに濾過池・沈澱池を設

置して、鑛毒の蔓延を防げり。

紫城址。平川村にあり。延元元年平川高親の建築に係り、其十世の孫親倫に至り、毛利氏の有となりしが、幾もなく德川氏に屬し、元和年中松山城主池田長幸の所有に歸せり、既にして成羽城主山崎家治の有となり、後、また德川氏の直轄となり爾後代官の治むる所となれり。

穴門山神社。高山村大字高山市にあり。成羽の西南約四里、赤滚權現とも稱す、長田山の中腹にして、天照大神・倉稻魂命・足仲彦命・穴門武姫命を合祀せり。社前は崖に臨み、社後には松杉鬱茂す、又社傍の山腹に嚴穴あり、入ること七八間にして、石門とも稱すべき形をなす、之を城戸と云ひ、一城戸・二城戸・三城戸と呼ぶ。其深さ如何あるべきか、或人松明を取て匐ひ入ること數町、蝙蝠頭面に遮り、飛ぶ事幾十萬、流水あり、河邊を徘徊せる時、向の岸に異光を現ず、驚き歸れりと傳へ、天の岩戸に

擬せり。

國吉城址。手莊村國吉山の嶺にあり。永正十年三村政親の居城たりしが、天正二年小早川隆景に攻陷せられ、其將口羽某代りて住みしも德川氏となりて、糟谷安長慶長七年より仝十六年まで在城、此年直轄となり、元和二年地長幸に屬し、後五十餘年間代官の治所となり、元祿七年水谷勝時移り住むに及び七代百七十餘年を經て、明治維新に至れり。

澤柳瀧。大賀村字上大竹に在り。懸水三段となりて落下し頗る壯觀を極む。

松原山。大賀村に在り。大竹川の南岸に峙ち景致愛すべきものあり。

鏡ヶ瀨。成羽町の西十數町、字佐々木の西境に一奇景あり。成羽川の水俄に低下し、水勢奔激、鳴る音雷の如し、里人呼で鏡ヶ瀨と稱す、廣二十

間、長百三十間、尤も奇觀なり。

町村名及戸數人口……二町十三村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
成羽町	一、一九二戸	六、五九九人	下原、上日名、下日名、星原、佐々木、成羽、羽山
玉川村	三一二	一、七一七	玉、下切、增原
日里村（ひのさと）	六二三	三、四八二	明治、黑忠
手莊村（てのしやう）	七九七	四、四一四	地頭、領家、三澤、七地、臘數、吉木
大賀村	五八七	三、三九九	仁賀、上大竹、下大竹
高山村	三八一	二、二〇二	高山、高山市、大原
富家村（とかや）	四五二	二、六四一	布賀、布瀨、長屋、志藤—用瀨
平川村	五一〇	三、一六四	六四
湯野村	五九七	三、七五三	東油野、西油野、西山
吹屋町	一、一三三	五、二八二	坂本、吹屋、中野
宇治村	三九三	二、二七二	穴田、宇治、本郷、遠原

中村	三九三	二、三六〇	相坂、羽根、小泉、布寄、長地
松原村	四〇八	二、五四八	松岡、春木、大津寄、神原
高倉村	四二九	二、六六四	田井、飯部、大瀬八長
落合村	七〇六	四、〇八七	阿部、原田、福地、近似

阿哲郡

不動瀧。草間村に在り。一に絹掛瀧又は棚ヶ瀬瀧と稱す。草間村の入口より右折し、小流に沿ひて登ること二十四五町にして瀧に達す。高さ十二丈、幅五尺、水聲韆韆として飛沫雪の如し、尤も幽閑の境とす。

間歇泉。草間村に在り。普通一日三回宛冷泉を流出す、然れども元來何れにか溜りたる水のサイホンの理によりて流出するものにして溫泉の噴出するものとは自ら異なり、水源地の水量如何によるものなれば其回數、水量等一定し難しと云ふ。

槇の穴。草間村に在り、穴口小にして匍匐して入らざる可らず、されど一間許りにして、眼前頭上急に展開す、上房郡鐘乳穴と同じく石灰洞にして、鐘乳の垂下せる狀彼に優るとも決して劣れるものあらず、傍に觀音あり前面に龜あり、吉原格子あり誠に縣下有數の奇觀なりと云ふ。

羅生門。草間村大字土橋にあり。石灰岩の洞貫したる三個の大石門、十餘間を距てゝ山間に直立す。然も其上に樹木を生じ、高さ各三四十尺頗る雅趣あり。而して溪流は相集りて鐘乳寶内に入り、其末狹りて深潭を成せり。

新見町。高梁川に沿へる山中の廣邑にして、人口約四千、江戸幕府の時、關氏一萬八千石を賜はり、此所に陣屋を建てたり。今阿哲郡役所・警察

署・區裁判所・稅務署・小林區署・新見女學校・阿哲銀行・經木工場・鄉木木炭製俵場・兒玉木炭製俵場等あり。名產としては「つくばね」と稱する風味ある漬物及び高梁川に香魚の產あり。

高梁川は此町より河口まで凡そ二十里の間、舟運の便あり。されど高梁に至る間には蟻ケ瀨・蜂ケ瀨等の急灘ありて、舟をやるにやゝ危險なりと云ふ。

黑髮山。新見町の東方にあり。山中に清瀧と稱する觀音堂建てらる。萬葉に

ぬばたまの黑髮山を朝越えて、
山下つゆにぬれにけるかも

玄賓僧都の歌に

旅人のますげの笠や朽ぬらん
くろかみやまのさみだれの頃

などありて、古歌に讀まれたる名山なり。

上熊谷溫泉。新見の東北なる熊谷村字上熊谷に在り。亞爾加里泉にして、溫度七十五度許。胃腸衰弱・氣管支炎等に効ありと云ふ。

大佐山。刑部村の西境に聳え、高千尺、山頂に一の池あり、大佐山池と云ふ。周圍約六町、水深くして、鯉鮒の族に富む。巨樹老松翠影を倒影して魚木に登る景色あり。

丹治部。丹治部村大字田治部は仁德天皇の皇子瑞齒別尊生れ給ひし折、虎杖の花御湯の瓮中に落ちしより、皇子の湯沐の邑として定められし地なり。

方谷園。刑部村の西南青山の麓金剛寺の境內に山田方谷の草庵あり、方谷山田先生は明治の初年此村に隱逃せられ塾を開きて子弟を敎

養せられしなり。今同村小坂部の北端刑部川の岸なる先生終焉の地を開きて方谷園となす、坪六百許、明治四十二年の創設にして花崗石の碑石（高三丈）を園の中央に立て、梅・櫻・松・桃等の花木を以て裝ふ。

萬歳井。新見町の南、川上郡吹屋に到る中間萬歳村大字矢戸にあり。傳へ曰ふ、此湧泉は、昔、宇多天皇此地に巡幸し給ひし時、命名あらせられしものなりと。古歌に曰ふ。

君の代にもろ人のくむ萬代の
水はつきせぬ岩井なりけり

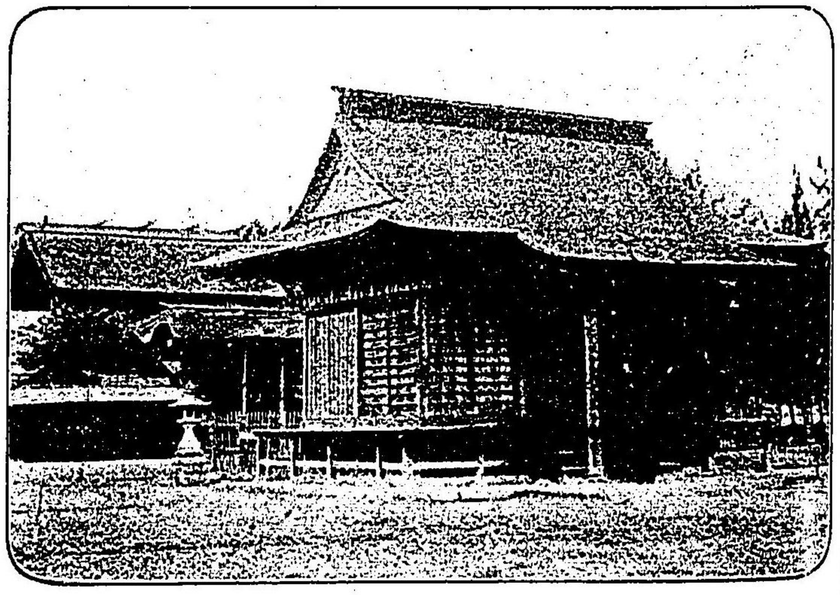
町村名及戸數人口……一町十八村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
上市村	六三五戸	三、二七二人	井村、坂本、西方、金谷
新郷村	三五四	一、八五一	釜村、高瀬

神代村	四三一	二、三九四	下神代、油野
矢神村	五〇四	二、七〇九	上神代、矢田
野馳村	四六一	二、四四〇	大野部、八島、畑木、大竹
新砥村	三四三	一、九五九	蚊家、大野、田淵
萬歳村	三四二	一、九七七	矢戸、老榮、荻尾
本郷村	五三四	三、〇二九	則安、宮河内、花木、成松
石蟹郷村	五〇七	二、九三一	井倉、法曾、長屋、石蟹
新見町	一、一三八	四、一八三	新見、高尾、馬場
美穀村	四三二	二、三八四	唐松、正田
草間村	七一一	四、三八九	草間、足見、土橋
豐永村	四二六	二、五〇五	宇山、佐伏、赤馬
丹治部村	三一四	一、七六〇	田治部、布瀬
刑部村	四五七	二、三八五	小坂部、小南、永富
上刑部村	一九六	一、一〇四	山奥、大井野
千屋村	五二一	二、三二〇	千屋、實、花見、井原

菅生村	三一四	一、七〇二
熊谷村	四一七	二、四四一
上熊谷、下熊谷		

鶴山城址



作楽神社

第四編　美作國

眞庭郡

久世町。坪井より約三里にして至る。津山の西六里十五町なり。高田川市街の中央を東西に貫き、人口約六千人餘、交通の要路に當れるを以て、民家整正、人煙稠密なり。勝山區裁判所出張所・稅務署・專賣局高梁收納所出張所・岡山(煙草)製造所田下分工場・癩病豫防事務所・女學校・貯蓄銀行・津山銀行支店・久世製絲合資會社・鄉社久世神社の外朝日神社・八幡神社・三榮神社・吉祥寺・眞光寺・重願寺・興善寺等あり。此地多く煙草を產し特に山中煙草の名あり、猶晒葛・木材・生糸等を出す。

交通路としては出雲街道の外高田川には舟楫の便あり、落合・福渡を經て岡山地方に通ずべく且つ此れに沿へる縣道あり、北方には十國

峠を越えて湯原溫泉、八束村等を經て伯耆倉吉町に通ずる道路あり。

瑞景寺。久世の東南二里、河内村大字中河内に在り、曹洞宗にして、永德年間僧實峰艮秀の開基と云ふ、古へは堂宇頗る壯觀なりしも今は稍頽廢に傾けり。

落合町。郡の南部、久世の南一里半にあり高田川に沿ふ、岡山より伯耆に至る街道の一驛次にして人口約六千、高田川に舟便あり岡山へ通ず(十六里)勝山區裁判所出張所、落合銀行、私立女學校、佛土寺等あり。

木山神社。落合町の西方木山村大字木山にあり。弘仁年中の創建に係り、往時は木山午頭天王社と稱し、素盞嗚尊を祭る。明治六年鄕社に列せられたり。社域廣寛にして老樹鬱茂し、中央に本社、拜殿、殿として鎭座し、其左右に數宇の末社あり、本社の感神踊は近鄕の名物として傳へらる。近傍に一寺あり往時當社別當にして普善寺或は木山寺と稱し眞言宗を奉ぜり。

勝山町。郡の中央、高田川の東岸にある郡中第一の市街にして久世の西僅かに一里餘(岡山より十八里三十四町)、山陰街道の要驛たり、人口約八千人、眞庭郡役所、區裁判所、警察署、土木派出所、勝山銀行、高田神社、玉雲神社、金比羅神社、八幡神社、明見神社、明圓寺、安養寺、大雲寺、明德寺、觀音寺、化生寺、實科高等女學校等あり。木炭、紙を多く出し高田硯、晒葛等は名產にして、高田川の香魚又美味なり。

勝山城址。此地は舊時眞島又は高田と稱し、明和以降三浦氏二萬三千石の治所にして城址今尙町の北方に存す。明和元年三浦志摩守明次、德川氏の封を受けて新に城塞を勝山に修築し、此所に居る、其後九世相續して明治維新に至る。今僅に石壘を存するのみ、而して勝山小學校は藩學明善校の後なりと云ふ。

明德寺。臨濟宗大本山永源禪寺の開祖、寂室禪師誕生の聖地なれば、永遠維持せん爲めに建てたる古刹にして、目下保存會を組織し、維持しつゝありと云ふ。

梶原景時の墓。勝山町の南、高田川を隔てゝ久世町大字神村に神林寺あり、附近の一古刹にして、和銅二年此を創建し、後、僧圓譽再建したりと傳ふ。眞言宗に屬し、寺に元曆年間、此地に守護職たりし梶原景時の墓あり。

神庭の瀑。勝山町大字神庭の山溪にあり、市街より北一里、源を星山に發し、忽ち懸崖の上より落下して一大奇觀を呈す、高三百六十尺、幅三十尺、澎湃聲雷の如く噴沫飛散して近く可らず、此地兩山屹立して樹木巉巖幽邃にして猿樹間を渉り飛ぶ樣を見ること多し、秋の紅葉狩最も雅なり。瀑南二町の處一の巖窟あり、又東の一澗を隔てゝ滴雨泉

あり高さ一間餘、斜めに岩面を走りて水晶簾の如し。

眞賀温泉。一に金湯と云ふ。勝山町の北二里半、湯原村字仲間に在り、弱亜爾加里泉にして温度百六度、無色透明なり。此地北には櫃ケ仙聳え東に高田川の清流あり、懸崖の中腹に民屋十餘戸、浴舍客室の設備あり、胃腸衰弱、僂麻質性諸病に効ありと稱す。傳へ曰ふ、元弘の亂に、雲州守護武家方、佐々木氏の部下、岩佐秀貞三船資成、伯州船上山に戰ひ、敗れて創を負ひ、此地に來り、賤が伏屋に潛み、此温泉に浴し瘉ゆるを得たり、二人因りて居を此地に占め子孫に及ぶと、猶此地の北に次樽(都喜足)(湯原村都喜足、温度百度、亞爾加里泉、皮膚病及痔疾に効あり)禾津(湯原村大字禾津にあり温度八十八度、鹽泉、胃腸衰弱及僂麻質性諸病に効あり)郷錄(湯原村大字本庄にあり温度九十四度、泉質効能禾津に同じ)の三泉あり。

湯原温泉。久世町の北四里弱にして伯耆別路の湯原村大字湯本にあり。硫黄泉にして臭氣甚しく銀製の器具、硫氣の爲め黑色に變じ、水色

は濁れり。溫度は百六度、諸種の皮膚病・僂麻質性病氣・神經病等に効能あり。此溫泉は創始を詳にせずと雖ども一說によれば慶長の初、宇喜多秀家の母痼疾を患ひ醫藥効なし、而して此溫泉に浴するに及びて病ひ忽ち癒えしかば、秀家乃ち其臣に命じ浴場を設けしめしが、既にして廢絕したるに後、美甘總兵衞なるもの、これを再興したるなりと云ふ。

神代寶。　勝山町大字神代にあり、一に鬼の穴と稱す。寶口の高さ二丈七尺、深さ二十二間、窟中の岩石皆乳色を帶び洞天には石乳の如きもの數多垂下す、中に潭水あり、阪穴あり、自ら階を爲し窪處に達す、空濶にして深窈終に其の盡くる處を知らずと云ふ。

美甘。　勝山町の西北約四里に在る山陰街道中の一驛なり。美甘神社、宇南寺（宗眞言）竹元寺（宗眞言）等あり、材木・煙草・經木等を產す。地自ら山水の美を備ふるを以て、夏季の避暑地として適せり。

新庄村。　美甘の西北二里にあり。此地なる新庄瀧は雌・雄の二つとなり、雌瀑は高さ二十尺・幅二十五尺、雄瀑は高さ七十尺・幅二十五尺と稱す。又其下流に野土路瀑あり、高さ四十尺・幅二十尺と云ふ。何れも神代川の源にして流末は高田川に注げり。

四十曲峠。　新庄より道は四十曲の險路に入る。峠は高さ二千五百四十一尺、鳥取市へ三十四里十一町、岡山市へ二十五里二十町、而して新庄より山を越えて伯耆の板井原驛まで二里二十町の間、人力車の杙に綱を附け、馬をして曳かしむ。

篠向城址。　川東村大字大庭、篠向山上にあり。貞治年中飯田氏の居城となりしも、山名時氏に攻め陷れられ、嘉吉元年赤松氏の殘黨據りしも山名敎之に陷れられ、文龜年中三浦貞連の居城なりしが三浦氏滅び

天正十年江原親次の城地となりしものなり。

月田城址。勝山町大字月田に在り、一に兼居城と云ふ。天正・永祿の頃、楢崎元兼の居城として、頗る勢威ありしも後、毛利氏に屬し、秀吉に抗せしを以て遂に功なくして死したりと云ふ。

飯山城址。二川村大字黑杭飯山の北山腹にあり、往昔安藝盛重の據りし所なりと云ふ。今城礎及空濠等を存せり。

町村名及戸數人口……三町十四村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
勝山町	一、五九四戸	七、九四四人	勝山、月田、本郷、三田、福谷、江川、荒田、後谷畝、神代、柴原、見尾、眞賀、菅谷、正吉、神庭、竹原、星山、岡、横部、組山、久世
落合町	一、〇八三	五、六九三	中、日名、杉山、影、高屋、福田、開田、上市瀬、下市瀬、四河内、垂水、向津矢
水山村	五一八	二、六四二	下方、水山、日野上、鹿田

津田村	五五三	二、八八〇	野原、舞高、旦土、吉、田原山上、上山
美川村	五七七	三、四七九	栗原、一色、闕、佐引、別所
富原村	六〇四	三、五二四	月田本、岩井畝、岩井谷、上、若代、後谷、野、下岩、清谷、曲り、古呂々尾中、若代畝、高田山上
美甘村	六三六	三、一七九	美甘、黑田、鉄山、田口、延風
新庄村	三八〇	一、八二五	
二川村	三七一	一、七五五	種、粟谷、小童谷、黑杭、藤森
川上村	五七六	二、七九二	本茅部、西茅部、東茅部、上德山、下德山、上福田、湯船
八束村	五六八	二、七一五	中福田、宮掛田、宮山根、下福田、上長田、下長田、下見
中和村	二七二	一、一二二	下和、吉田、別所、鼠加子、初和
湯原村	七九四	四、二五三	見明戸、本庄、豐榮、禾津、仲間、湯本、下湯原、田羽根、三世七原、久見、社、釘貝小川、都喜足
久世町	一、四五〇	六、二一八	草加部、神、惣、宮尾、久世、中島、多田、三坂、鍋屋
美和村	六四四	三、六六二	樫西、樫東、余野下、余野上、甕金屋、目木、三崎、中原
河内村	四五六	二、五二七	上河内、中河内、下河内
川東村	五六〇	二、九三二	

苫田郡

津山町。鐵路岡山より三十五哩三、町は美作國第一の都邑、岡山縣下第三の都邑にして、美作山地の中央なる津山盆地に位し、地形頗る優勝なり。四面は多く山岳を以て圍繞せられ、津山川其南を廻り、川を隔てゝ久米の皿山と相對す。人口約一萬四千許り、市街繁盛なり。停車場は町の西南約十町なる佐良山村にあるを不便とす。市街は東西に長く連亙し、宮川を以て二部に區劃す。此地に在る官衙としては苫田郡役所・警察署・區裁判所・稅務署・小林區署・岡山監獄分監等あり。其他重なる建物には縣立中學校・同高等女學校・津山銀行・津山貯蓄銀行・土居銀行・普通銀行・美作製紙株式會社・津山製糸合資會社・津山電氣會社・津山商品倉庫合資會社・製紙原料合資會社・日本柳織製造合資會社・津山煙草

元賈捌合名會社・合資會社共榮鑄造所以下あり。而して町の東、材木町・伏見町・京町より福渡町を經て西今町、西寺町に至るものを本街道とし、福渡町附近最も殷賑なり。物産としては足袋・宮川漬・初雪等あり。又製紙會社よりは盛にボール紙を製出して大阪・神戸地方に輸出せり。猶町は獨り美作國の中心として重きを爲すに止らず、山陰街道の要衝として、東西運輸中繼點をなし、備前に通ずる吉井川の舟運の便あるが爲め、因幡・伯耆より出す貨物の水運に依るものは悉く此所に輻輳す。

鶴山公園。此地は元、松平氏十萬石の城下にして、舊城址、市街中央の北部にあり、今鶴山公園と稱す。此城は、嘉吉元年山名修理大夫敎清、滿祐を滅せし功を以て、本州の守護に補せられしとき、其族、判官忠政に命じ築城して鎭撫せしめしものにして、今の藥研濠、厩濠は當時の遺物

なり後、慶長八年二月國守森右近大夫忠政、德川氏の封を受くるに及び、翌九年大に修築を加へ、經營數年を經て元和二年全く落成し、五重の天守閣（高十七間）をも造れり。然るに森氏五傳して長成に至り、元祿十年八月嗣なくして國除かれ、同十一年正月松平源之助宣福の治所となり世襲して明治維新に至る。明治二年城を廢して其趾に一の石碑を建つ、而して廢藩の後明治四年此地に北條縣を置き、美作全國を管轄せしが、明治九年遂に岡山縣に合併したり。而して明治七年より天主閣其他樓櫓門等を毀ち荒廢に屬せり。登臨すれば、老松鬱蒼たる中に、城壁依然として存し、全市街を一目の下に下瞰し得べく、北方の山麓は竹林濠を蔽ひ、東は縣崖高く峙ち、宮川其下を流れ、眺望甚だ佳なり。衆樂園。城址の北に公園あり、衆樂園と云ふ。元、松平氏の庭園なりしが、今は町有となれり。中央に池あり、老樹、亭榭其周圍に配置せられ、規模

大ならずと雖も、鶴山公園と相對し、幽邃、閑雅甚だ愛すべし。

德守神社。字宮脇町にあり。縣社に列す。天平五年の創建にして天照大神を祭神とす。其後廢頽せしを、慶長九年國主森忠政津山築城に當り、これを再營して津山の鎮守神となす。寺域は市街平坦の地にあるを以て特に風景の賞すべきものなきも賽人常に踵を絕たず。其他大隅神社あり大巳貴命を祭る。

津山の佛寺。佛閣の大なるものに本源寺・妙法寺・泰安寺・妙願寺（一向宗）等あり。

本源寺は字西今町にあり、臨濟宗東海派の精舍にして、興國元年足利尊氏の創營と稱し、元、西西條郡神戸鄕神戸村（今の苫田郡院庄村字神戸の地なり）にあり、萬松山安國寺と號せり。然るに慶長九年森忠政之を小田中村（西苫田村）に移し、僧海晏を以て中興の開祖となす。越て全十二年忠政其夫人名

謹屋氏を西今町の北に葬り、再び安國寺を其地に遷徙し、改めて龍雲寺と號し、國主の菩提寺となす、今の方丈は實に此時の建築なり。後、天和三年忠政の五十回忌に當り、其法諱により本源寺と改む。

泰安寺は字西寺町にあり。淨土宗に屬し、僧眼譽の創立する所とす、當時覺王山涅槃寺と稱したりしも、元祿十一年國主松平氏の菩提所となり、元文四年、淨光山泰安寺に改む。

妙法寺も字西寺町にあり日蓮宗に屬し、法音院日充を以て開祖となす。

總社神社。津山町の西北二十餘町、西苫田村大字總社にあり。縣社にして大巳貴命を祭り。相殿に中山、高野兩社の神を配祀し、社殿の地を龜甲山といふ。欽明天皇の二十五年神籬を造り、和銅六年新に美作國を置かるゝや、本社の東に國府を設け、養老五年、美作全國の諸神を合祀して正一位總社大明神と號し、主府自ら全國の豐安を祀る處とす。社は一丘の上に鎮して磴之に通ず。本殿は方七間許り、現在の社殿は森長繼の造營する所にして、中山、高野と共に美作三社と併稱し、參拜の客常に多し。

國府遺址。同所にありて、今國府の碑を總社賽路の右方に建設す。地は現今田圃と變ずるも方凡そ五町許、隆然として岡阜を爲し、一望遙に國內の郡峰を眺め、四時の風光自ら心神をして爽快ならしむるものあり。明治十三年津山の人矢吹氏其遺址を搜り、有志と謀りて前記の碑を此地に建つ。題額は二品晃親王の御筆にして前岡山縣令高崎五六文を撰し、巖谷一六之を書す。又碑の傍に國府臺寺あり。

中山神社。津山町の北一里許り、一宮村大字西一宮村にあり。一に仲山大明神又は南宮と稱し、當國一の宮にして、國幣中社に列す。祭神明か

ならず或は吉備津彦命と云ひ、或は鏡作尊・瓊々杵尊・大巳貴尊を合祀すと云ふ。本社は慶雲三年の創建後、永正八年大災に遇ひ、再建せしが、更に天文年間又兵燹にかゝれり。而して永祿二年尼子修理大夫源晴久造進する所の殿宇、卽ち今の社殿なり。社地は長良嶽の麓に位し、東に宮川を帶び、西北は遠く群峰と相連り、社前には御手洗川の水流あり、其他、社境の內外に名所多く、鍋淵・神仙山・猿休石・水無瀨池・兒呼阪・牲殿谷等著名なり。

圓通寺。 津山町を距る北二里半、香々美南村大字香々美に在り。眞言宗の名藍にして京都嵯峨大覺寺末に屬す。弘仁八年弘法大師の開創なりと傳へ、本堂には空海自作の本尊觀世音及び脇士不動明王・毘沙門天を安じ、大師堂には日輪大師の像を置く。寺寶には不動尊畫・眞向不動尊の影・十一面觀世音の畫像・大師水鑑の影像・巨勢金岡筆の佛畫・小

野篁筆の十王畫像・其他佛畫・佛器あり。

大町瀧及大瀧。 兩瀑共に香々美北村にあり。大町瀧は高さ百二十尺・幅三十尺・大瀧は高さ九十二尺・幅四十八尺にして水源は泉山より發し、大町川・大瀧川となりて香々美川に入る。

泉ケ山。 一に井水ケ嶽と號す。高三千九百九十尺、郡の中央、泉村の東に屹立して峭崒天を磨す。其麓なる同村大字養野村より頂きまで一里十町と云ふ。山腹に射水權現社あり。其頂上危巖の欹つ處を大冠と號す。巖の高さ十間・幅六七間、石路逶迤として之に通ず。大冠の北に泉地あり方五間許、碧水鏡の如し。蓋し山名亦此泉池に起因すと云ふ。絕頂に登臨すれば、因・伯・雲・讃さては中・後の翠巒悉く指顧すべく風景頗る明媚なり。

奥津溫泉。 津山より七里・院庄より凡六里・奥津村にあり。三所に分ち、奥

津・大釣・鍵と云ふ。奥津溫泉は溫度百九度を保ち亞爾加里性なり、大釣溫泉は溫度百二度炭酸泉にして、鍵溫泉は百七度亞爾加里性なり。何れも僂麻質性の諸病、胃腸衰弱等に効ありと云へど、道路不便なるを以て、來浴するもの極めて稀なり。

岩井滝。上齋原村にあり。高さ百尺・幅八十尺を有す、水源は三國山にて流末は奥津川となる。

二宮松原。津山町を西に出で、二宮に至る街道、十八町の間を二宮松原と云ふ。青松路を夾み翠色掬すべし。廣瀬旭莊の詩あり。

夾路青松好、　幾回停步看、
山含鐵氣峻、　廟帶水聲寒。

縣立農事講習所。二宮村に在り。主として蠶業上各種の試驗を施行し、又養蠶傳習生を養成し屑繭整理講習等を開き、斯業知識の啓發奬勵

をなしつゝあり。

高野神社。二宮村大字高野原にあり。縣社にして鷓鴣草葺不合尊を祀る。安閑天皇二年の創建なり、後、寛文年中、森長繼大に社殿を修營し、本殿・釣殿・拜殿・回廊・神樂殿・神饌所・社務所等あり。社地は高燥にして、西北に神山を負ひ、南は津山川を隔てゝ佐良山を望むべく、眺望甚だ佳なり。且つ城内に宇那提森址あり、これ萬葉集に

眞鳥住む卯名手の森の菅の根を
衣にかきつけ着せん兒もがな。

と詠ぜし古蹟と稱し、傍らに數千年を經たる老椋あり。社に行成の筆なりと傳ふる木造神號額一面あり、國寶として珍重せらる。

院の庄作樂神社。院庄村大字院庄にありて津山の西一里餘とす。社は明治二年松平慶倫の創建せるものにして縣社なり。神門を入れば正

殿・拜殿あり、本殿のある所は卽ち古への皇居址と稱せられ、後醍醐天皇と兒島高德との靈を祀る。

拜殿の東に碑あり、明治二十六年の建設にして、表面に有栖川宮熾仁親王殿下の御眞筆に係る、天皇當時の御製

あはれとはなれも見るらむ我民を
思ふ心は今もかはらず
よそにのみ思ひぞやりし思ひきや
民の竈をかくて見むとは

の二首を刻せり。又高德の幹を削りて詩を題したる櫻樹の遺址には、元祿元年森氏の臣、長尾勝弼、更に櫻を植ゑ、碑を建てたり。其銘に曰く。

皇帝赫怒、　鳳駕西翔、　天翼神聖、
爰降賢良、　片言誌櫻、　百世流芳、

明分討賊、　磐忠勤王、　義氣刻嚴霜、　云々

金剛頂寺。中谷村大字山城村の地に眞言宗の一古刹あり、蓊尾山金剛頂寺と號す。大寶三年の草創に係り、聖觀音を本尊とす。而して其本堂は嘉元元年僧覺日の再營せるものなり。

町村名及戸數人口……一町三十村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
二宮村	三〇二戸	一、五七五人	
院庄村	三五〇	一、九五〇	院庄、神戸、戸島
芳野村	四三三	二、一九五	古川、吉原、布原、寺元、宗枝、眞加部
郷村	三一三	一、七〇八	河本、原、高山、薪森原、下原
大野村	四八八	二、五七八	竹田、圓宗寺、和田、眞永寺、土居、瀬戸
小田村	二六五	一、四〇七	上森原、下森原、馬場、塚谷、小座
中谷村	二七九	一、五八一	入、山城、中谷

宮村	三五七	一、七四三	宮西谷、宮東谷、宮仲間、大、楠
久田村	三八八	二、〇〇二	久田下原、久田上原、河内、黑木、土生
泉村	二三七	一、一八四	箱、西屋、杉、養野、井坂、女原、至孝農
羽出村	二二〇	一、〇四五	羽出、羽出西谷
奥津村	二一四	一、一四三	奥津、奥津川西、長藤、下齋原
上齋原村	一五九	一、一三五	
津山町	三、七〇三	一四、九八六	山下、北町、田町、椿高下、城代町、材木町、伏見町、京町、河原町、堺町、船頭町、小姓町、吹屋町、二階町、元魚町、二丁目、三丁目、新職人町、新魚町、桶屋町、南新座、戸川町、福渡町、美濃職人町、下紺屋町、鍛冶町、細工町、上紺屋町、坪井町、宮脇町、四今町、鐵砲町、西寺町、茅町、安岡町、新茅町、中ノ町、西新町、東新町、上ノ町、橋本町、林田町、勝間田町
西苫田村	六〇六	三、〇七一	小田中、山北、總社、小原、上河原
一宮村	一八八	一、〇一一	四一宮、東田邊、西田邊
田邑村	三四一	一、八六四	上田邑、下田邑
香々美南村	四〇一	二、〇五五	寺和田、香々美、市場、公保田、澤田、沖
香々美北村	三二一	一、六九五	百谷、眞經、大町、岩屋、越畑

林田村	六〇四	三、一二七	林田、川崎、野介代
高野村	六一六	三、四八七	押入、高野山西、高野本郷、野
東苫田村	二四九	一、四二一	志戸部、勝部、粒保、沼、大田
東一宮村	二三一	一、二六四	東一宮、東一宮山方
神庭村	二八九	一、六四〇	綾部、吉見、草加部
高倉村	三二四	一、八八七	下高倉東、下高倉西、上高倉
高田村	五四二	二、九五六	下横野、大篠、上横野
加茂村	四九三	二、五九〇	小中原、齋野谷、塔中、宇野、原口、戸賀、黑木、倉見
四加茂村	三七九	二、一三二	中原、百々、楢井、行重、成安
東加茂村	三九八	二、二四五	公郷、下津川、桑原、小淵
上加茂村	三四四	一、七七九	知和、青柳、山下、河井、物見
阿波村	二二三	一、一七三	

勝田郡

國分寺。津山町を距る東方半里許りにして、河邊村大字國分寺にあり。即ち天平年間聖武天皇勅寺の一にして、相距ること數町に尼寺址あり、往昔は、此兩寺の間に廻廊を架せりと。附近に大門、中の塔・觀蓮臺・塔の窪・遊塚・三日市・玉傳寺・西蓮寺等の地名殘り、又近年里民、石礎八基を得たるに方各七八尺ありしと、又以て當時の隆盛を知るに足る。

菩提寺。豐並村大字高圓に在り。一に役行者の開基にして、僧鑑眞の中興と稱す。現時淨土宗を奉じ、岩間山と號す。源空幼時人となり穎悟聰明にして、才智に群に超えたりしかば、叔父觀覺其才を受し、此寺に迎へて養ふ。源空日夜精勵、佛書に親み學業大に進む。後長じて叡山に入り諸鴻儒に就きしなりと。寺内に圓光大師手植銀杏樹あり高さ十丈

周圍五丈餘の大木なり。

菩提寺城址。同所にあり、小原入道の居城なりしが、建武三年江田行義新田義貞の命を受けて來り攻め、入道破れて英田郡山王山城に逃れたり、後、有元宗兵衛佐顯此城に據りしも後、山名氏の爲めに攻め陷れられ、正平十六年山名氏の居城となりしが、應仁元年赤松の將、中村某の爲めに陷れられたりと。

那岐山。（名義或は奈義に作る）豐並の北に峙立し、高さ四千九十三尺、因幡八頭郡に跨れり。山頂樹木なく、南は遠く瀬戸内海を望み、北は遙に日本海を眺め得べし。元、山上に奈義神社鎮坐ありしも今は山麓豐田村大字成松に遷せり。

廣戸瀧。那岐山の西嶺瀧山の山中にあり一に近藤瀧と云ふ高さ二十尺。

日本野。　那岐山の南方、北吉野村の廣原にして、面積百十三町歩、附近に大なる（面積四十八町）長野（面積十四町）奥日本野（面積百一町九）小日本野（面積二十五町）西野（面積六十四町）黒川野（面積四十七町）等ありて界隈にては製紙養蠶の業盛に行はる。

勝間田町。　郡の中央にあり。瀧川の流域に沿へる山中の名邑にして、津山へ二里半、岡山へ十五里二十町とす。人口約三千、町に勝田郡役所・警察署・津山區裁判所出張所・組合立農林學校・勝間田銀行等あり。近世、附近より古墳を發掘し、五箇の陶棺を得たり。

三星城址。　豐國村大字妙見に在り、正平年中後藤良猶より累世此所に居を占め、後浦上氏に屬せしが、宇喜多氏の興り、浦上氏を滅すに當り、時の城主元政、義を守りて降らず、天正七年遂に直家の爲めに陷れられたり。

湯郷温泉。　一に鷲湯と稱し、湯郷村にあり。英田郡倉敷町より僅かに半里、倉敷川の西岸、石英粗面岩の凝灰岩中より湧出し、これを浴漕に移し、火熱を加へて以て療浴に供せり。常温九十六度、硫黄泉にして、皮膚病・僂麻質性諸病に特効あり、且つ風景秀麗なるを以て毎歳夏期浴客甚だ多し。舊記によるに太古、少彦名尊始めてこれを發見し勝田の御湯と稱せしが、後煙沒し、清和天皇貞觀二年に至り、叡山の僧圓仁法師文珠菩薩の宣托に由りて再びこれを改修したるものなりと。附近の名勝として圓仁法師奉進の醫王佛を安置せる藥師堂あり、又東方妙見山に三星城址あり。

鷲山城址。　郡の南隅飯岡村鷲山に在り。浦上宗景の家臣星賀光重の居城なり。時に岡山城主宇喜多直家の威權日に盛にして天正七年美作の諸城を陷伐せんとし、部將延原彈正景光・花房職秀等をして先づ此城を攻めしむ、城兵よく防ぎしと雖も寡は遂に衆に敵する能はず、光

重等遂に城を燒きて自殺したりと云ふ。

町村名及戸數人口……一町廿二村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
新野村	五一〇戸	二、七三三人	新野西上、新野四中、新野四下、新野東、新野山形
廣戸村	四三六	二、二六三	廣戸市場、廣戸大岩、廣戸大吉、廣戸奥津川
勝加茂村	五七一	三、一九八	勝加茂西上、勝加茂西中、勝加茂西下、勝加茂原、勝加茂安井、勝加茂坂上、上野田、下野田、楢
廣野村	四〇二	二、三三三	近長、河面、福井、田熊
植月村	四四六	二、四〇七	植月東、植月中、植月北
吉野村	四二〇	二、二二二	美野、田井、豐久田、曾井、上香山
勝田村	六〇六	三、五二一	矢田、河内、小畑、大町、眞加部、余野、久賀
古吉野村	二九八	一、六六九	石生、河原、下町川
北吉野村	四八五	二、八八七	上町川、瀧本、荒内西、中島西、中島東
豐田村	四五一	二、六六五	豐澤、廣岡、宮内、成松、久常、是宗、柿
豐並村	四三二	二、四一四	西原、皆木、行方、高圓、闕本、小坂、馬桑

梶並村	五四八	三、一六四	梶並、東谷上、東谷下、眞殿、右手、楮
瀧尾村	二六一	一、三八四	堀坂、妙原、津川原
勝間田町	六五二	三、一三三	勝間田、畑屋、東吉田、岡、黑土、小矢田、平
豐國村	四三三	二、四〇三	北山、豐岡原、上相、中尾、下香山、和田、吉、明見
湯郷村	四八五	二、三五六	湯郷、中山、入田、位田、則平、稻穗、金屎、北坂、殿所、背木、奥大谷、下大谷、長内
公文村	三三四	一、八五七	安蘇、下山、烏淵、中河内、城田、背野、岩見田
飯岡村	三四〇	一、八七一	飯岡、高下、王子、吉ヶ原
南和氣村	三六三	二、〇八九	藤田上、藤田下、松尾、惣田、休石、鹽氣、吉留、重藤、柵原、下谷、連石、上間
北和氣村	四三六	二、六〇七	行信、曹副、周佐、羽仁、百々、安井、宮山
高取村	二九五	一、六九九	池ヶ原、福吉、黑坂、爲本、堂尾
大崎村	三三〇	一、九二四	金井、中原、福力、新田、西吉田
河邊村	五二〇	二、九七二	國分寺、日上、瓜生原、河邊

英田郡

倉敷町。英田郡の西南梶並川と吉野川との會合點にあり。津山町の東五里、山陽線和氣驛より六里半、因幡往還の一驛にして、人口約三千、商賣櫓を連ね、市街殷昌なり。地に英田郡役所・警察署・津山區裁判所出張所・稅務署・實科順正女學舍・勝英銀行・作東銀行等あり。

倉敷山城址。此城は鎌倉時代、後藤良兼の居城なりしが、其後尼子晴久の臣、河副美作守久盛の城地となり、尋で宇喜多氏の所有となり、又小早川秀秋の有と代り、其臣稻葉通政の據る所たりしと云ふ。

天石門別神社。倉敷町を距る三里餘、河會村大字瀧宮に在り。縣社にして手力雄命を祭る。舊記に據れば吉備津彦命吉備國平定の時、此神靈驗を現し給ひしに依りて、命社を草創せらる、然るに天正年間宇喜多

氏の家臣長船紀伊守其神田を沒收し、神位記・社印・舊記等を奪ふ。と、現在、本社・幣殿・拜殿・神樂殿・隨神門・社務所及び攝社早瀧神社・八幡神社あり。神寶としては、束帶古木像・社錦・古代馬鞍・鏡・轡・甲冑其他數點あり。

早瀧。社後にあり。岩壁の上より落ち下流を瀧川と云ひ、地社を繞りて鳥居の前を過ぐ、水流、石に激して鞳鞳聲を爲す處を琴曳の瀨と云ふ。

杉坂峠。山陰街道土居驛の北、江見村大字田原に在り。播州との國界にして、元弘二年官軍赤松圓心此地に關塞を設け山陰道をさし固め、又後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の際、兒島高德御跡を慕ひて此地に來り、鳳駕を奪ひ、奉らんとして事成らず、更に苫田郡院庄の行在所に向ひし由、太平記に見ゆる地なり。

大聖寺。吉野村大字大聖寺に在り。開基明かならず元龜二年再興し眞言宗に屬す往古は頗る壯嚴を極めしも、年と共に衰頽して賽人漸く

稀ならんとす。

後山。本郡と播州宍粟郡とに跨る。高さ四千、四百三十七尺、東粟倉村大字後山より一里十四町にして山嶺に達すべし。嶺上寺院あり、延命山道仙寺と云ふ、門に名木毛枝櫻立てり。又山中瀧あり流水は飛下して四時の景勝總て美ならざるはなし。

眞鐵ふく後山の煙にも
さわらで嶺の月ぞさやけき

馬形山。郡の北西部粟廣村大字馬形にあり、古歌に讀まれたる名山にして

こゝかしこゆき見えながらかすみたつ
馬形山にうぐひすのなく
千早振る神のまさひにつくりけん
よしやよしのゝ馬形の山
何時の世に誰がつくりけん馬形の
山のすがたの勇ましきかな

等の詠あり。

町村名及戸數人口……一町十七村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
西粟倉村	五五六戸	三、〇六九人	大茅、坂根、影石、長尾、筏津、知社
東粟倉村	三九三	二、二六〇	後山、中谷、背野、太田、野原、吉田、川東
大原村	五一六	二、七〇四	江ノ原、古町、辻堂、下町
讃甘村	三〇二	一、七三九	西町、今岡、宮本、下庄、小原田
大野村	三四八	一、九六八	笹岡、野形、川上、桂坪、瀧
大吉村	三四二	一、九二五	立石、赤田、田井、粟野、壬生、川戸、澤田
吉野村	四一一	二、三七五	五名、宮原、大聖寺、豆田、小ノ谷、山手

粟井村	三九七	二、二六九	梶原、小房、小野、粟井中、鷲巣
粟廣村	三〇三	一、七一九	馬形、長谷内、田殿、宗掛
倉敷町	六四〇	二、九八七	倉敷、三海田、三倉田、朽木
猫原村	三八七	二、一四五	檜原上、檜原中、檜原下、平福
江見村	七八〇	四、二九一	川崎、川北、原、上福原、山城、田原、日指、鮎、藤生、吉田、蘆河内、瀬戸、大内谷、松脇、豊野、岩邊、南海、
土居村	五六九	二、七七六	土居、竹田、角南、泉、蓮花寺
福山村	二六五	一、四七八	萬善、國貞、柿ヶ原、鈴家、田淵
豊田村	三五五	二、〇九〇	北原、友野、山口、出外野、大原、猪臥、海内、平田
河會村	四三八	二、二一一	北、瀧宮、中川、南、横尾、上山
巨勢村	四八一	二、六八九	海田、下倉敷、尾谷
福本村	三九七	二、〇八七	福本、奥、井口、三保原、鼠神

久米郡

福渡村。郡の南端にして旭川の北岸に在り、岡山・津山の中心點に位し、且つ旭川水源地より交通せる船舶の荷揚所にして、水陸の交通頗る便に從て人烟稠密なり。香魚を名産とす。停車場より南三町餘、備前御津郡上建部村に八幡溫泉あり(詳細は御津郡に記せり)

弓削村。福渡の次驛にして誕生寺川に沿ひ、津山區裁判所出張所あり、燒酎を主産とし他に荒銅・刻煙草・薪炭・木材・紋筵等の産あり。

天魔瀧。弓削村大字下弓削の北端より折れて西に入り、大字西山寺を過ぎて行くこと約十町にして松村あり。此れより溪流に沿ひて樵路を攀づれば、數町にして素練の絶壁にかゝるを見るべし。これ卽ち天魔瀧にして高さ六十尺、幅十尺、飛沫雪の如く、眺觀誠に奇なり。

佛教寺。弓削驛より西、二十五町を隔て、龍川村大字佛教寺に在り。眞言宗にして醫王山と號す。境内千六百坪許、丘陵四方を圍み、二王門・三重塔・山門・十三堂・鐘樓・護法堂・龍王堂・本堂等を有し、本堂には藥師如來・文

珠菩薩・五智如來等を安置す。抑も當山は和銅三年喜惠上人の開山にして、肩野部長者乙丸の建立なり。同七年元明天皇勅願所と定められ堂塔初めて完備せり。後、弘法大師唐より歸朝の時、錫を此地に留めて四天王の像を安置し、元慶年中には陽成天皇勅して四十九の僧舍を建立せしめらるゝと傳ふ。

泰山寺。　龍川村大字泰山寺にあり。同じく眞言宗に屬し、天平年中唐僧鑑眞の開創なりしも後廢絶したりしかば寛正年中豐樂寺（福渡村大字下神目にあり）の僧某、これを後興せりと。

本山寺。　弓削停車場の東一里二十五町、吉岡村大字定宗に在り。天臺宗にして岩間山と號す。本堂には聖觀音、十一面觀音を安し、別に施無畏堂・三佛堂・三重塔・地藏堂・庫裡等散在し、堂後の一阪路を登れば、小丘の頂きに行者堂・藏王堂あり、又鐘樓の傍に逆木櫻あり。傳へ曰ふ、僧源空の母、子なきを憂ひ、此寺に祈り源空を生む然も母、一日參籠の時、携ふる所の杖を地上に挿みて去りしに、後、其杖より根を生じ、花を着くるに至る、卽ち逆木櫻これなりと。當山は文武天皇大寶元年、賴觀上人これを草創せり、而して天平寶字の頃、唐僧鑑眞和尙來りて伽藍を再興し、天永元年古道人なる者、今の本尊を安置す。此くの如き由緒正しき爲めにや、明治二十一年本堂修繕の折には、內務省より特に保存費壹百圓を下賜せられたり。

誕生寺。　誕生寺驛は弓削の次驛なり。寺は停車場より僅に五町、稻岡南村大字井庄方里にあり、栃社山と號す。實に淨土宗の開祖源空の誕生地にして、寺は建久四年源空が其徒弟熊谷蓮生坊に命じて其考妣追福の爲めに創建せしもの、寺內廣濶、堂宇亦宏壯にして、蔚々たる青山あり、滾々たる清流あり、山紫水明共に賞するに餘れり。又此流れ

に住む魚皆雙眼なりとて此の流れを片目川と云へり。正門・供養堂・本堂・客殿・阿彌陀堂・念佛堂・涅槃堂・勢至堂・觀音堂・經堂・地藏堂・蓮池・圓光大師兩親墓・石寶塔等見るべきもの多く、寺に源空自刻の影像・同人自筆の名號・惠心筆觀音畫像・大明古圖・思恭筆三尊畫像等を初めとし、お七の小袖・片目川の片目の魚・中將法女の黑髮にて書き現はしたりと云ふ十字の尊號・熊谷法師の用ゐし常念佛の鐘・圓光大師の母君秦氏の鏡等あり。

練供養。　毎年四月十六日行はるゝ練供養は、何所にても相當の寺院にて行ひ居れど、二十五菩薩の裝束を取揃へ、壯嚴なる式を行ひ居れるは全國只僅かに三ヶ所のみなりと云ふ。本寺のものは、毎年交代にて圓光大師の父君時國、母君秦氏とを迎ふる由にて、供養の當日、住職は、父母二方何れかの尊像を本堂より取出し、供養堂に移し置き、二

十五菩薩にて迎へ居れり。猶二十五菩薩を勤むる者は信徒中より毎年一月二十四日を期し、申込順によりて選定する由なるが希望者頗る多しと。

源空。　父は久米押領使漆間時國、母は秦氏なり、長承二年四月七日稻岡南村に生る、人と爲り穎悟聰明なり、年甫めて九歲、其父は故ありて人に殺さる、父の臨終の遺命に感じ出家す、勝田郡菩提寺の僧觀覺は叔父なりしが、其才を愛して弟子とす、十三歲にして叡山に登り源光に從ひ、十五歲にして剃髮受戒す。次で十八歲の時、黑谷に退き叡空の門に入る。此故を以て後に源空と名付けしなり。其他の諸鴻儒に就て學大に進む。偶々惠心僧都の往生要集を讀みて深く感ずるところあり。竟に一日六万遍の稱名念佛を反復するの一宗淨土を開立せり。然るに此教義は東西南北に傳布し、勢當る可らざるものありしかば、南都

北嶺の僧等に憎まれ、これが爲め一時は流罪の不幸に遭遇せり、然も、後、勅免を蒙り、建暦二年正月二十五日八十歳を以て沒せり、元祿十年東山天皇勅して圓光大師の號を給へり。誕生寺は卽ち源空四十三才の時、父母の墓側に創建したるものなり。

甲龜（かめのおう）。誕生寺の次驛にして加美村大字原田龜甲にあり。山間の一小驛に過ぎざるも、久米郡役所・警察署等の官衙あり。又驛より半町にして、田畝の間一老松の下に巨石あり、形、龜に似たるを以て、龜甲と名けたりと云ふ。此地、清酒・生糸・竹細工・薪等を産物とす。

荒神山城址（くわうじんやまじやうし）。福岡村荒神山にあり。山は佐良山村の東に隆起し、津山町の南嶺たり、（津山町より西南一里餘、山麓より登路十五町とす）津山川其北東を廻流す、山頭に城址あり、元龜中宇喜多直家の臣花房職秀の築く所にして、元和年中職秀、備中高松に死したる後、城亦廢す。城址の

北に寺蹟あり、職秀の建立に係りしものにて、今尙其蹟に孤松を存す、もと制札を建てたる所なりとて俗に札松（ふだまつ）と稱す。

二上山（ふたかみやま）（又二神山）。郡の中央にある郡中の名山にして高さ凡そ二千二百尺、龜甲驛より一里にして山麓大併和（おはが）村に達し、其より二里十六町にして山頂に至る。嶺上は二に分れ、二神を奉祀し、又眞言宗兩山寺あり、今は廢頽せりと雖も往古は寺坊二十四を有し宏觀なりしと。其境地幽遠にして遠く瀨戸内海を望み得べし。

かき數ふ二上山の雪の上に
霞たなびく春ちかみかも

玉くしげ二上山に紅の
雲棚引て雨は霽にけり

佐良山（皿山）。津山停車場の西南二十町、佐良山村大字皿山の全部を久

米の皿山と呼ぶ。山は高さ僅かに百二十四尺に過ぎざれども古來和歌に詠まれて其名高し、頂上に小池あり月見の池と云ふ。麓より北五町を隔てゝ和歌神社あり、往昔京都僧某、柿本人麿の像を携へ來りて此地に安置せしものなりと。

和歌數首

美作や久米の皿山さら〳〵に
むかし〳〵の戀しきやなど

音に聞く久米の皿山さら〳〵に
己か名たてゝ降る霰かな

思ひやる久米の皿山さら〳〵に
霰ふる夜の竹のしたいほ

きゝおきし久米の皿山こえ行かん

道とはかねて思ひやはせじ　（增鏡）

美作や久米の皿山さら〳〵に
我名はたてじ萬代までも　（古今集）

貴布禰神社。亀甲の北に於て岐れし一路は津山町に至らずして、西北を指し、更に山陰街道に連續す。途中倭文東村大字桑村に貴布禰神社あり。堀河天皇の時、山城國加茂大神を遷し祀りしなりと傳ふ。

坪井村。苫田郡津山町より來れる山陰街道と、亀甲の北より來れる一路とは院の庄の西にて相會し、更に西して坪井村に至る。此地は津山の西三里半、久世の東三里にして一小驛なり。旅客は多く此地にて人力車の乘換を餘儀なくせらる。

岩屋城址。大井西村大字中北上にあり。嘉吉元年赤松氏族誅せられ、山名敎清赤松に代り美作の守護となるや、敎清此地に築き居る。二十餘

年の後、赤松政則再び山名氏に代り本州を賜ふ。永正年間赤松の執事浦上村宗叛くや、時の城將中村大和守則久、村宗に應せしことあり。

八幡神社。倭文西村字山手公文南にあり、村社にして譽田別命を祀る、同社は古木鬱蒼たる山上の中央に鎮座す。天文年間豐前宇佐八幡宮を勸請したるに始まり今の社殿は天正の頃中山手里常山の城主江原兵庫祐親次氏の再建せるものなり。

金龍山江原寺。同村字中山手里に在り、北は盛上山奉公園に相對し、東西南の三面は遙かに遠山を見風景佳なり、眞言宗に屬し、江原氏征韓の役に釜山にて病歿せしを家臣此地に葬りしに初まる。

錦織。今三保村の內に錦織と云へる地あり、此れ古への錦織鄕の地にして、秦氏の住みし所なり、秦氏は其祖を融通王と云ひ百二十七縣の人民を率ゐて百濟より歸化せしを、仁德天皇諸國に居き、蠶を養ひ、絹

を織らしめ以て朝貢に備へしめられしなり。貞觀七年秦豐永なるものあり、天性至て孝心深く、幼にして二親を養ひ、父母亡き後は常に其墳墓を守りしかば、遂に課役を免ぜられたり。

町村名及戶數人口……二十三村。

町村名	現住戶數	現住人口	大字名
大井西村	四七〇戶	二、一四七人	坪井下、坪井上、中北上
大井東村	三三三	一、六六三	宮部下、宮部上、中北下
大倭村	三一二	一、七九二	南方中、南方一色、神代
久米村	三四〇	二、二一七	久米川南、宮尾、領家
三保村	三八八	一、八四三	下打穴下、下打穴中、錦織
打穴村	三七二	一、八五二	打穴西、上打穴里、上打穴北、打穴上
倭文東村	二九四	一、三九三	桑下、桑上、福田下、福田上、戶脇
倭文中村	三五六	一、七六九	油木北、油木下、油木上、里公文、里公文上
倭文西村	四九四	二、三五三	山手公文北、山手公文南、中山手里、中山手奥
四川村	五二八	二、六三九	通谷、四坪和、奥山手

垪和村（はがむら）	三七二	一、九五七	中垪和畝、東垪和、中垪和谷、中垪和上口、小山
大垪和村（おほはがむら）	四六三	二、四〇二	
鶴田村（たつたむら）	四五一	二、二一〇	和田南、角石谷、三明寺、角石畝
弓削村（ゆげむら）	四一三	二、二六三	下弓削、上弓削、西山寺、松、鹽之内、羽出木
吉岡村	五五八	三、三一七	大戸下、大戸上、定宗、山之上、藤原、久木、小瀬、栗子、塚角、八神
福岡村	四五五	二、五七四	横山、八出、小桁、金屋、荒神山、種、押淵、大谷
佐其山村	五二六	二、七三六	井口、北、一方、中島、平福、皿、高尾、福田
加美村（かみなみむら）	六七二	三、五四二	原田、越尾、新城、金堀、小原、西幸、粕元
稲岡南村（いなをかみなみ）	四四四	二、二〇六	北庄里方、北庄山手、南庄、山之城
龍川村（たつかは）	三三二	一、七四七	上二ヶ、下二ヶ、佛教寺、金間、泰山寺
龍山村	二七〇	一、四三一	上粕、中粕、下粕、別所
福渡村（ふくわたり）	四四五	二、一九二	福渡、川口、下神目、豐樂寺
神目村（かめめ）	四一一	二、一六二	神目中、上神目、宮地、下二ヶ山手、峠、京尾、南畑、安ヶ峠

新編 岡山縣地誌提要 終

附錄

岡山縣下特別保護建造物

名稱	構造形式	所在地名
吉備津神社本殿及拜殿	本殿桁行正面五間、裡面七間、梁間十八間、單層屋根比翼入母屋造、檜皮葺 拜殿三間四面、重層屋根切妻造、檜皮葺	岡山縣吉備郡真金村 吉備津神社境內
同　南隨神門	八脚門、屋根入母屋造、本瓦葺	

岡山縣下國寶

種類	品目	所有者
繪畫	絹本著色如意輪觀音像　一幅	岡山縣岡山市國富村　中藏院
同	絹本著色地藏菩薩像　一幅	同　同院
同	紙本著色地獄繪卷　一卷	同　安住院

附錄

彫刻	木造不動二童子像	三軀	同	眞庭郡鹿田村 勇山寺
同	木造藥師如來坐像	一軀	同	同 寺
書跡	木造神號額（傳、行成筆）	一面	同	苫田郡二宮村 高野神社
彫刻	木造十一面觀音立像	一軀	同	英田郡倉敷町 安養寺
繪畫	絹本著色兩界曼荼羅圖	二幅	同	福本村 長福寺
同	絹本著色不動明王像	一幅	同	同 寺
同	絹本著色十二天像（傳、增叶筆）	十二幅	同	同 寺
彫刻	木造十一面觀音立像	一軀	同	同 寺
同	木造聖觀音立像	一軀	同	御津郡御野村 法界院
同	木造釋迦如來坐像（延文三年十一月ノ銘アリ）	一軀	同	和氣郡伊部村 妙國寺
書跡	紙本墨書四座講式（高辨筆）	四卷	同	伊里村 千手院
繪畫	絹本墨畫山水圖（傳、馬遠筆）	一幅	同	邑久郡牛窓町 本蓮寺
美術工藝	色々威甲冑	一領	同	今城村 豐原北島神社

附錄

彫刻	木造藥師如來坐像	一軀	同	餘慶寺
繪畫	絹本著色佛涅槃圖	一幅	同	大宮村 遍明院
同	絹本著色彌陀二十五菩薩奉迎圖	一幅	同	同 院
美術工藝	藍革肩白腹卷（附明輪二（傳足利尊氏奉納））	一領	同	同 院
繪畫	絹本著色中不動三十六童子左右兩界曼荼羅圖	三幅	同	鹿忍村 寶光寺
美術工藝	銅鐘	一口	同	上道郡西大寺町 觀音院
繪畫	紙本淡彩餓鬼變紙	一卷	同	富山村 曹源寺
彫刻	木造毘沙門天立像	一軀	同	都窪郡菅生村 安養寺
同	木造吉祥天立像	一軀	同	同 寺
繪畫	絹本著色愛染明王像	一幅	同	小田郡三谷村 神澤寺
同	絹本著色四所明神像	一幅	同	同 寺
同	絹本著色地藏菩薩像	一幅	同	同 寺
同	絹本著色愛染明王像	一幅	同	同 寺

同	絹本著色五大尊像	一幅	同	寺
同	絹本著色佛涅槃圖	一幅	同	神島內村 白性院 安養
同	絹本著色地藏十王像	一幅	同	神島外村 日光寺
彫刻	木造地藏菩薩立像	一軀	同	後月郡高屋村 高山寺
同	木造不動明王坐像	一軀		同寺
繪畫	絹本著色地藏菩薩像	一幅	同	吉備郡總社町 寶福寺
同	絹本著色十王像	十幅		同寺
同	絹本著色釋迦三尊像	一幅	同	上房郡高梁町 願久寺
彫刻	木造千手觀音兩脇士像	三軀	同	阿哲郡豐永村 三尾寺
刀劍	太刀銘井上眞改延寶五年八月拵末卷太刀附池田綱政寄進狀一通	一口	同	御津郡一宮村 吉備津彥神社

小學校各科教材連絡表（修身科）

教科書	題目	教材
尋常小學修身書卷一、教師用	第十七、忠義	木口小平
仝 卷三、教師用	第二、忠君	和氣清麿
仝 卷四、教師用	第九、兄弟	池田光政
仝 卷六、兒童用	第十七、慈善	和氣廣虫

同（國語科）

教科書	題目	教材
尋常小學讀本卷十	第十三課 花筏	磯崎眠龜
仝	第二十課 溫泉	

仝	卷十一	第四課	兒島、高德、舟坂山、杉坂、院庄
仝		第五課 瀨戸內海	
仝		第十九課 蠶 布	
仝		第二十一課 紡 績	
仝	卷十二	第四課 天氣豫報及暴風雨警報	測候所
仝		第十三課 國產の欸	中國筋の花筵
高等小學讀本卷一		第六課 公 園	後樂園
仝		第七課 關ヶ原合戰	宇喜多秀家、小早川秀秋
仝		第十八課 盲啞學校	

仝		第二十五課 共進會の模樣を報ずる手紙	岡山縣の花筵
仝	卷二	第一課 孝明天皇	藤本鐵石
仝		第十五課 我が國の水產業	八濱水產試驗場（牡蠣、海苔の養殖）
仝新制三年用上卷		第九課 變遷 近世文章ノ	室鳩巢
仝		第十四課 の武士 源平時代	平忠盛
仝	下卷	第二課 日本刀	
同			（地理科）
教科書	題目		教材
尋常小學地理卷一		第九、近畿地方ノ二、和歌山縣	新宮（熊野神社）
仝		第十一、中國地方ノ二、岡山縣	旭川、岡山、縣廳、第十七師團司令部、後樂園、麥稈眞田、花筵、兒島半島、製鹽、津山

仝	卷二	第十一、朝鮮地方	岡山村（生業）
仝		第十三、經緯度	岡山縣位置、
高等小學地理卷二		第三、陸地（溫泉×平原）（地下水ノ作用）	鑛泉、日本野、鐘乳窟、槇の穴、岡山沿革
仝		第五、大氣（氣候）	
仝		第十、教育神社宗教	黑住教、國幣社、縣社、鄉社、村社、
仝		第十一、十二、產業	米、牛、食鹽、綿糸、莫蓙、瓦田
同		（歷史科）	
尋常一、二	高等一、二		
天照大神	天孫の降臨		
神武天皇	神武天皇の創業		吉備高島宮、國造、縣主

日本武尊	皇威の振興と世運の進歩	吉備津神社、空海の賊、吉備津彦陵、建部、
神功皇后	朝鮮の服屬と學問工藝の傳來	錦織、服部、足守宮
仁德天皇	物部氏と蘇我氏	佛教の傳來と物部、蘇我兩氏の爭、工藝美術の進歩
聖德太子		支那との交通
天智天皇	藤原鎌足	大化の改新と律令の制定	國府、坂長驛、軍團
聖武天皇		奈良時代	國分寺、吉備眞備、吉備眞備の墓
和氣清麿		奈良時代の文物	和氣清麿の墓、萬葉集（牛窓、兒島、高野神社）和氣清麿、和氣廣蟲
桓武天皇		平安時代の初期	和氣清麿、
菅原道眞		藤原氏の權權	唐琴の浦、
朝臣の榮華と武士の起	朝政の榮華と武士の興起	平安時代の文物	釜島の戰、巨勢金岡の墓

	藤原氏の失權と院政、僧兵		
源義家	源平二氏の盛衰		
平清盛		平忠盛、藤原成親の墓、藤戸の渡、關白屋敷、水島の戰	
源頼朝	鎌倉幕府	守護地頭(沿革)	
承久の亂		頼仁親王墓	
元寇			
	鎌倉時代の文物	誕生寺、長船、青江、源空、榮西、安養寺(淺口)、最明寺址	
北條氏の滅亡	北條氏の滅亡	院の庄、陶山岡城址	
建武の中興	建武の中興		
吉野の朝廷	吉野の朝廷		
足利義滿	室町幕府の盛時 關東管領		
應仁の亂	室町幕府の衰亡 室町時代の文物	東西兩洋の接近	寶福寺、雪舟、伊部燒

戰國時代	京都の疲弊		
	戰國時代 南蠻人の渡來	西洋人の渡來と我が鎖國政策	
織田信長	織田信長の功業		沿革
豐臣秀吉	豐臣秀吉の海內平定		八濱の七本槍、高松城址
德川家康	德川家康の霸業		岡山城址
德川家光	江戸幕府の組織と其の政策 海外諸國との交通 基督教の傳來と島原の亂		倉敷、藩制一覽
德川綱吉 新井白石	學問の復興と元祿時代		本蓮寺、池田光政、室鳩巢、閑谷學、岡山藩學校
德川吉宗	江戸幕府の中興 寛政の治と天保の改革		西山拙齋
尊王論	尊王論と國学の勃興		

外艦の渡來と攘夷論	外艦の渡來と開港の顚末	露國の東方經略 我が外國船擊攘の令 開港の顚末	藤本鐵石
大政奉還と明治維新	江戸幕府の衰亡と大政奉還	江戸幕府の衰運 尊王攘夷論の優勢と長州征伐の顚末 王政の復古と維新戰亂の鎭定	廢藩置縣
臺灣征伐と西南の役	明治聖代の內治	內治の整頓 外交の進步	玉島港
憲法發布	明治聖代の外交	立憲政體の確立	花房義質
明治二十七八年戰役と條約改正		朝鮮の扶植と明治廿七八年戰役 法律編纂及び條約改正 明治廿三年清國事變と日英同盟	
明治三十七八年戰役		明治三十七八年戰役及び戰役の經營	
平和條約と韓國併合		人文の發達と軍備の整頓 總括	

明治四十五年三月二十日印刷
明治四十五年三月二十五日發行

新編岡山縣地誌提要奧付
正價金四拾八錢

著者 岡山市大字下之町七十七番地 伊藤光雄

發行者 岡山市大字下之町七十七番地 合資會社細謹舍
代表者 宮野涙治郎

印刷者 岡山市大字下之町七十七番地 千田峰吉

發行所 岡山市大字下之町七十七番地 合資會社 細謹舍

不許複製

269
157

特20
238

新編 岡山県地誌提要

国立国会図書館

025795-000-6

特20-238

岡山県地誌提要（新編）

伊藤　光雄／著

M45

ADC-3333